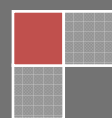




平成 20 年度 年報

医療法人 社団 三光会
誠愛リハビリテーション病院



目次

理念と方針.....	4
巻頭言.....	6
沿革.....	7
病院概要.....	8
関連施設.....	9
年間行事.....	10
部内活動.....	11
医局.....	12
看護部.....	20
リハビリテーション部.....	22
管理部.....	29
患者動向.....	34
平均在院患者数.....	35
新入院患者数.....	35
病棟別入院稼働率.....	36
病棟別入院・転入患者数.....	36
外来平均患者数.....	37
外来初診患者数.....	37
入院患者 ICD - 10 分類別.....	38
退院患者 ICD - 10 分類別.....	38
ICD - 10 別退院患者平均年齢・平均在院数.....	39
委員会活動.....	40
医療安全管理委員会.....	41
事故対策委員会.....	43
医薬品安全管理委員会.....	46
医療機器安全管理委員会.....	47
院内感染対策委員会.....	48
防災委員会.....	49
医療ガス安全委員会.....	51

労働安全衛生委員会	52
公用車運行管理委員会.....	53
個人情報保護委員会	54
薬事委員会.....	55
給食委員会.....	57
カルテ開示委員会.....	58
褥瘡対策委員会.....	59
診療録管理委員会.....	60
図書管理委員会.....	61
広報委員会.....	62
環境美化委員会.....	63
サービス向上委員会.....	64
輸血療法委員会.....	65
N S T 会議.....	66
誠愛教育委員会.....	67
平成 20 年度委員会会議開催実績一覧.....	71

理念

ひとりひとりの明日のために、
質の高いリハビリテーション医療を提供し、
患者さんの活動と社会参加を支援します。

基本方針

- 患者さんの人権を尊重し、個人情報を守秘します。
- 法令を遵守し、説明の同意のもと、安全で全人的な医療を行います。
- 活発な研修及び研究活動を展開し、先進的なリハビリテーション医療を提供します。
- 個々の患者さんに適した療養環境を整えます。
- 地域に連携し、社会に貢献できるチーム医療を目指します。

医療法人 社団 三光会
理事長 小野山薫

平成 20 年度の三光会は組織の安定性、永続性を目指して「足元を固める」をテーマに方向転換を開始した。以下に本年度の主要な項目を羅列した。

4 月、九大医学部病態機能内科（第 2 内科）准教授井林雪郎先生を病院長として迎えたことは大きな人事である。誠愛リハビリテーション病院に大黒柱が通り、脳卒中のリハビリテーションが定着、発展するものと期待される。黒川徹先生は名誉院長として今後ともご活躍いただくことになった。

病院に副院長制度を導入し、部門ごとの責任体制を明確にした。従来からの医師副院長に加え、看護師、リハビリテーション、福祉、事務に副院長を導入した。新任副院長には金山萬紀子、林克樹、西茂子が就任した。

三光会の MS 法人である（株）メディコの派遣事業と委託事業が三光会の経営に異常に大きな影響を及ぼしていることは、平成 19 年理事長着任直後から指摘してきたことであるが、三光会のメディコ（株）への依存度を減少させることを開始した。まず三光会役員が（株）メディコ役員を兼務していることを中止した。ついで、三光会の主要組織である誠愛リハビリテーション病院、介護老人施設カトレアに（株）メディコが派遣している事務系職員約 100 名を三光会職員に転籍することを 20 年 7 月を目標に開始した。事務手続きの途中で（株）メディコ代理人弁護士から仮処分の申請が提出され、一時、転籍手続きは遅滞したが、裁判所の判定により所期の目的は達せられた。転籍に伴う職員の動揺はなかった。そ

の前後、中村義夫管理部長の誠愛リハビリテーション病院辞職、西茂子氏の誠愛リハビリテーション病院副院長、カトレア管理部長、および三光会理事の辞職届が提出された。またカトレアで実施されていたサービスボランティア組織白桃会が解散を申し出られた。

新たな人事として、10 月、福岡銀行から今村洋一氏を管理部長に迎えた、また総務課長の交代、医事課長の新設など組織を一新した。10 月、前回から 5 年経過した病院機能評価（Ver5）を受審し、21 年 3 月に合格通知を得た。これは病院の組織の結束、見直し、弱点の検知に有用であった。11 月、人事考課表を今後採用することを検討課題とした。

誠愛リハビリテーション病院は築 20 年経過し、従来から修繕費の計上が少なく、後追いで最低限の修繕が繰り返されてきたので所々に支障を生じている。建物は斜面に建設され 3 階以下は背面が土中に埋まっていることが年を経るにつれて大きなハンディとなっている。本年度は 1 階および 4 階リハ屋外の漏水対策、床修理を行った。今後は厨房にかなりの手入れが必要である。フィットネスクラブの一部、136 m²、を改装して、訪問看護ステーション誠愛、訪問リハビリテーション誠愛、居宅介護支援事業所カトレアを移転させた。薬局に待ち番号表示システムを導入した。三光クリニック透析室改装の一部が完成した。三光会の経営は予定通りの収支でほぼ順調であった。誠愛リハビリテーション病院の査定減対策が今後の大きな課題である。

誠愛リハビリテーション病院

院長 井林雪郎

平成20年4月より当院に赴任致しまして、丁度1年が過ぎました。平成元年から、現 小野山理事長(当時 九大第二内科助教授)のお口添えで、月一回土曜日の外来を担当させて戴いていたためか、職員の中に顔見知りの方も少なくなく、前 黒川院長(現 名誉院長)にも学生時代から小児神経学の講義をご教授戴き、また医局の先生方もほとんどが大学研究室のメンバーでしたので、自分としてはこの上なくスムーズなランディングができ、心から感謝致しております。

脳卒中は、一般に人生の春夏を経て、さらに還暦を過ぎてからの秋冬の時期に急に襲ってくる病気です。こればかりは、自分がなってみないと到底本当のところは分かりませんが、ある日突然発症し周囲のご家族をも巻き込んだ長期に及ぶ慢性疾患(半分は生活習慣/食生活不摂生病の要素あり)ともいえます。普段、失語や半身麻痺・感覚障害などで高次脳機能や身体のご不自由な患者さんのリハビリのお手伝いをしているわけですが、昨日まで普通に暮らしていらした方々への細やかな気遣いや心配り(すなわち心配り)に欠けてはいないか、我々は常に自問自答しながら診療に当たらねばなりません。こちらに赴任してまず実感したこととして、70歳代以上の高齢者が大変多く日々懸命にリハビリに励んでいらっしゃるということでした。医療機器や新薬の登場により診断治療には目覚ましい部分がある一方で、加齢とともに進行する我国の代表的動脈硬化性疾患である脳卒中の発症・再発は予想以上に多く見受けられ、急性期を乗り越えても次には長くて険しい回復期～維持期リハビリが待っています。今後とも、国の福祉や社会保障等への動向を注意深く観察しながら、誠実で愛情に溢れた優しいリハ

ビリテーション医療が提供できるよう職員一同頑張りたいと思っております。

さて、赴任当初は、九大病院にも比較的近い地理的位置にありますし、残務も多少ありましたので、脳循環代謝研究室や関連の研究会には積極的に出席させて戴きました。程なく、当院における諸会議や毎週水曜日の総回診、周辺病院との脳卒中地域連携パス構築の打ち合わせ等の所用が次第に増えて参りました。漸く新しい自分のペースにも慣れ、毎日楽しく恩師同様FIFO(First-In, Last-Out)を心がけ過ごす中で、この1年間を振り返り自分にとっては初めての年報を発刊する機会となりました。筑紫地区における中規模の小児神経疾患と脳卒中に特化した回復期リハビリ病院として、積極的な学会発表や論文文化などの学術面での飛躍は、まだまだこれからではございますが、まずは隗より始める積もりで、かといって力み過ぎず、然し乍ら志はあくまでも尚く、諦めることなく堅実に階段を上って参りたいと考えております。従来は、病院内部のみが対象の手作り年報で済ませておりましたが、この度平成20年度として発刊致す分からは、日頃お世話になっております周辺の病院/施設/開業の先生方にも、広く宣伝を兼ねましてお届け申し上げたく存じます(今回は広報委員会が例年の倍以上もの時間をかけ、頑張って完成してくれました)。

当院にとって対外的にお配りできる初めての機会とは申せ、大変お恥ずかしい限りでございますが、先ずは第1歩からという気持ちです。どうかご笑覧の上、今後とも色々ご指導ご鞭撻を頂戴できればと願っております。有り難うございました。

病院沿革

昭和63年	3月	大野城市に医療法人社団三光会「誠愛病院」開設（210床） 院長 … 山下貴史 ・結核指定医療機関、原爆被害者指定病院、生活保護指定
平成5年	7月	「誠愛病院」を「誠愛リハビリテーション病院」に改称
平成10年	6月	託児所 併設
平成11年	7月	訪問看護ステーション誠愛 併設
平成12年	4月	居宅介護支援事業所カトレア 併設
平成14年	7月	回復期リハビリテーション病棟（36床）開設
平成15年	1月	黒川徹院長就任
平成15年	7月	回復期リハビリテーション病棟（40床）増設
平成15年	11月	医療機能評価機構認定病院として認定される
平成17年	1月	亜急性期病棟（10床）開設
平成17年	2月	日本脳卒中学会認定教育研修病院に承認される
平成17年	10月	電子カルテシステム導入
平成18年	10月	訪問リハビリテーション 併設
平成18年	11月	通所リハビリテーション誠愛 併設
平成19年	6月	メディカルフィットネス あいあい倶楽部 併設
平成20年	4月	井林雪郎院長就任，黒川徹名誉院長就任
平成21年	3月	病院機能評価（Ver.5）認定更新

関連施設： 介護老人保健施設カトレア
介護老人保健施設カトレア通所リハビリテーション
三光クリニック

病院概要

病院長	井林 雪郎
診療科目	リハビリテーション科 神経内科 内科 整形外科
診療時間	平日 AM9:00~PM12:00 PM1:30~PM5:00 土曜 AM9:00~PM12:30 休診日 日曜日、祝日
病床数	210床 一般病棟 54床（うち亜急性期対象10床） 回復期リハビリテーション病棟 116床 療養病棟 40床
指 定 認 定	身体障害者法、生活保護法、労働災害、原爆被爆者法、結核予防法 日本医療機能評価機構認定病院 日本脳卒中学会認定病院
施設基準	脳血管疾患等リハビリテーション料、運動器リハビリテーション料、 集団コミュニケーション療法料、一般病棟入院基本料（13対1入院基本料）、 回復期リハビリテーション病棟入院料、亜急性期入院医療管理料、 療養病棟入院管理料等
医療機器	MRI ヘリカルCT デジタル脳波計 三次元動作解析装置 上部消化管・大腸ビデオスコープ X線透視装置（ビデオ嚥下造影検査） カラードップラーエコー 近赤外光イメージング装置
その他	R & I 長期優先債務格付け「BBB」

当院は筑紫地区で唯一の脳血管疾患障害に対するリハビリの専門病院です。150名以上のセラピストにより幅広いリハビリを提供しています。また、医療法人社団三光会のグループ施設で隣接する介護老人保健施設カトレア、居宅介護支援事業所カトレア、訪問看護ステーション誠愛、メディカルフィットネスあいあい倶楽部と連携し、患者さんの退院後のケアの充実にも努めています。外来へお越しの患者さんのバスによる送迎を行うなど患者さんへのサービスの向上を図っています。

関連施設

施設	所在地	開設年月	代表窓口	受付電話
介護老人保健施設 カトレア	〒816-0956 大野城市南大和 2-7-1	平成 6 年 1 0 月	施設長 岩瀬 豊子	092-595-6101
<p>症状の安定した高齢者(要介護者)が家庭復帰し自立した生活を送れるよう、リハビリテーションや介護サービスを提供しています。</p> <p>当施設ではボランティアグループをはじめ、地域の方々との触れ合いが絶えない、明るく開放的な雰囲気を大切にし、楽しい生活リハビリを通じて心身の回復を図っています。</p>				
居宅介護支援事業所 カトレア	〒816-0956 大野城市南大和 2-7-2	平成 12 年 4 月	管理者 高尾 祐司	092-595-1350
<p>ご利用者様が住み慣れた自宅で安心して生活を送れるように、十分な話し合いを行い、ご利用者様の選択に基づき、適切なサービスが提供できるように他のサービス事業者や医療機関と連携を取りながら支援を行っていきます。</p>				
訪問看護ステーション 誠愛	〒816-0956 大野城市南大和 2-7-2	平成 11 年 6 月	施設長 荒武 裕子	092-595-8021
<p>寝たきり、歩行障害体力低下関節の拘縮などにより看護、リハビリが必要な状況にある方が、ご自宅で安心して生活できることを目的としています。</p> <p>当ステーションは家庭において療養が必要な方に、住み慣れた家庭で安心して生活が送れるよう、かかりつけ医師の指示を受けて訪問看護師・理学療法士などが定期的に訪問し、サービスを提供いたします。</p>				
三光クリニック 〒810-0044	福岡市中央区六本松 4-9-3	昭和 54 年 3 月	院長 吉田 昭男	092-713-0468
<p>透析治療を目的として開設し、夜間透析にての社会復帰及び昼間透析での自立した生活の維持を目的とします。</p> <p>今後は、透析患者の A D L の低下や家族の高齢化に伴い透析通院が困難になるケースが増えており、今以上に通院送迎を充実させて対応することを目標としています。</p> <p>定年退職された患者さんの要望を取り入れ昼間透析を実施しています。</p>				
福岡脳血管疾患研究所		平成 15 年 4 月		

平成 20 年度 年間行事

- 4月 1日 入社式
- 4月 12日 外来患者さんお花見会
- 5月 14日 ふれあい看護体験
- 5月 21日 韓国喜縁医療財団 来訪
- 6月 17日 台湾奇美病院 来訪
- 7月 8日 第1回誠愛院内勉強会「脳卒中の病態と多面的治療」
- 7月 18日 誠愛夏祭り
- 9月 8日 第2回誠愛院内勉強会「最近の結核の動向について」
- 9月 16日 心肺蘇生法講習会
- 10月 7日 第3回誠愛院内勉強会「脳血管障害患者の転倒要因と対策」
- 10月 22日 病院機能評価訪問審査 ~24日
- 11月 2日 地域グランドゴルフ大会
- 11月 18日 第4回誠愛院内勉強会「脳卒中のリハビリテーション」
- 12月 9日 第5回誠愛院内勉強会「ワーファリン使用上のリスクマネジメント」
- 12月 13日 地域ふれあい演芸会
- 1月 5日 年賀式
- 1月 8日 第6回誠愛院内勉強会「今後のリハビリテーションの展望」
- 3月 10日 第7回誠愛院内勉強会「労働災害と通勤災害」
- 3月 16日 第8回誠愛院内勉強会「院内肺炎について・タミフル耐性インフルエンザ」
- 3月 24日 消防訓練

部内活動

医局

看護部

リハビリテーション部

管理部

< 診療体制 >

平成 19 年 11 月の小野山薫新理事長就任につづいて、平成 20 年 4 月より脳卒中学・老年医学・脈管学を専門とする井林雪郎院長（九州大学病態機能内科学特任准教授併任）が着任し、黒川徹前院長（小児発達障害・リハビリテーションが専門）が名誉院長に就任して新体制がスタートした。従来と同様に地域連携・チーム医療に根ざしたリハビリテーション医療を積極的に展開するとともに、アカデミックな情報発信のできる体制づくりも行われているところである。病棟・外来・検査業務には、常勤医 10 名、非常勤医 24 名がこれにあたっている。また、従来より当院は、日本神経学会教育関連施設および日本脳卒中学会研修教育病院に認定されているが、これに加え、本年度より日本老年医学会教育関連病院の施設認定も受け、専門性の高い人材育成の場としてより高い評価を得ることができたと考えている。さらに、平成 21 年 10 月に病院機能評価再審査を受審し、平成 21 年 3 月認定された。

< 活動内容 >

当院の総病床 210 床のうち、半数以上の 116 床が回復期リハビリテーション病棟であり、その他一般病棟 54 床、医療型療養病棟 40 床が稼働している。本年度の入院患者総数は 569 例（うち脳血管障害 323 例、運動器 57 例、その他 189 例）、外来患者総数は延べ 60,241 例（うち成人 36,815 例、小児 23,426 例）であった。

入院患者（延べ 69,683 名）全例においては、チーム医療の一環とし、各部署の担当者とともにカンファレンス（入院、中間、退院など）を実施し、より有効性の高いリハビリテーション医療の実践に努めた。

地域医療連携に関しては、平成 19 年度よりスタートした大腿骨骨折地域連携パスを引き続き運用するとともに、本年度より脳血管障害地域連携パスの本格運用を始めた。まず福岡医師会方式の脳血管障害連携パスに参加し、主に福岡市南部から春日市にかけての急性期病院との連携強化を進めたが、さらに筑紫医師会方式による連携パスの立ち上げにも参画し、当筑紫地区における回復期リハビリテーションの中核的施設としての役割がより明確となった。また、多施設参加型の地域医療連携会議やワークショップには積極的に参加し、他施設との情報交換や連携強化に努めた。今後も院内のみならず多施設間を含んだチーム医療の展開に努力を重ねていきたいと考えている。

院内における教育活動としては、毎週の入退院症例検討会・院内カンファレンスや、毎月の専門学術誌抄読会および誠愛院内勉強会を継続的に行った。平成 21 年度から近隣の開業医の先生方とともに、第 1 回クリニカルカンファレン

ス(のちのリラックスカンファレンス)を開催したが、今後も定期的に継続していきたいと考えている。院外への学術的な情報発信も積極的に行い、なかでも当院における臨床研究の成果を、国際学会(世界脳卒中会議 WSC, ウィーン、6月)や英文誌(下記の業績に掲載)に発表できたことは特筆に値するものであり、今後当院の特性を生かした独創的な研究が進展することが期待される。

<業績>

(1)英文原著

- 1) Hagiwara N, Kitazono T, Kamouchi M, Kuroda J, Ago T, Hata J, Ninomiya T, Ooboshi H, Kumai Y, Yoshimura S, Tamaki K, Fujii K, Nagao T, Okada Y, Toyoda K, Nakane H, Sugimori H, Yamashita Y, Wakugawa Y, Kubo M, Tanizaki Y, Kiyohara Y, Ibayashi S, Iida M. Polymorphisms in the lymphotoxin alpha gene and the risk of ischemic stroke in the Japanese population. The Fukuoka Stroke Registry and the Hisayama Study. *Cerebrovasc Dis* 25: 417-422, 2008
- 2) Hagiwara N, Kitazono T, Kamouchi M, Kuroda J, Ago T, Hata J, Ninomiya T, Ooboshi H, Kumai Y, Yoshimura S, Tamaki K, Fujii K, Nagao T, Okada Y, Toyoda K, Nakane H, Sugimori H, Yamashita Y, Wakugawa Y, Kubo M, Tanizaki Y, Kiyohara Y, Ibayashi S, Iida M. Polymorphism in the sorbin and SH3-domain-containing-1 (SORBS1) gene and the risk of brain infarction in the Japanese population: the Fukuoka Stroke Registry and the Hisayama study. *Eur J Neurol* 15: 481-486, 2008
- 3) Imamura T, Doi Y, Arima H, Yonemoto K, Hata J, Kubo M, Tanizaki Y, Ibayashi S, Iida M, Kiyohara Y. LDL cholesterol and the development of stroke subtypes and coronary heart disease in a general Japanese population. The Hisayama Study. *Stroke* 40: 382-388, 2009
- 4) JATOS Study Group (Ibayashi S, included). Principal results of the Japanese trial to assess optimal systolic blood pressure in elderly hypertensive patients (JATOS). *Hypertens Res* 31: 2115-2127, 2008
- 5) Kumai Y, Ooboshi H, Ago T, Ishikawa E, Takada J, Kamouchi M, Kitazono T, Ibayashi S, Iida M. Protective effects of angiotensin II type 1 receptor blocker on cerebral circulation independent of blood pressure. *Exp Neurol* 210(2):441-448, 2008
- 6) Makihara N, Toyoda K, Uda K, Inoue T, Gotoh S, Fujimoto S, Yasumori K, Ibayashi S, Iida M, Okada Y. Characteristic sonographic findings of early restenosis after carotid endarterectomy. *J Ultrasound Med* 27: 1345-1352, 2008
- 7) Nakamura K, Kamouchi M, Kitazono T, Kuroda J, Matsuo R, Hagiwara N, Ishikawa E, Ooboshi H, Ibayashi S, Iida M. Role of NHE1 in calcium signaling and cell proliferation in human CNS pericytes. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 294: H1700-H1707, 2008
- 8) Fukuda K, Yuzuriha T, Kinukawa N, Murakawa R, Takashima Y, Uchino A, Ibayashi S, Iida M, Yao H, Hirano M. Alcohol intake and quantitative MRI findings among community dwelling Japanese subjects. *J Neurol Sci* 278(1-2):30-34. 2009

- 9) Nakamura K, Kamouchi M, Kitazono T, Kuroda J, Shono Y, Hagiwara N, Ago T, Ooboshi H, Ibayashi S, Iida M. Amiloride inhibits hydrogen peroxide-induced Ca²⁺ responses in human CNS pericytes. *Microvasc Res* 77(3):327-334, 2009
- 10) Ogata T, Yasaka M, Inoue T, Yasumori K, Ibayashi S, Okada Y. The clinical features of adult unilateral moyamoya disease: does it have the same clinical characteristics as typical moyamoya disease? *Cerebrovasc Dis* 26: 244-249, 2008
- 11) Ogata T, Yasaka M, Wakugawa Y, Inoue T, Ibayashi S, Okada Y. Deep venous thrombosis after acute intracerebral hemorrhage. *J Neurol Sci* 272: 83-86, 2008
- 12) Ohta Y, Fujii K, Ibayashi S, Matsumura K, Tsuchihashi T, Kitazono T, Ooboshi H, Kamouchi M, Hirakata H, Ogata T, Kuroda J, Iida M. Renal and carotid vascular resistance assessed with Doppler sonography. *J Clin Ultrasound* 36: 85-90, 2008
- 13) Santa N, Sugimori H, Kusuda K, Yamashita Y, Ibayashi S, Iida M. Apathy and functional recovery following first-ever stroke. *Int J Rehabil Res* 31(4):321-326. 2008

(2)和文原著

- 1) 緒方利安, 矢坂正弘, 湧川佳幸, 井上 亨, 井林雪郎, 岡田 靖. 脳内出血患者における弾性ストッキングによる深部静脈血栓予防効果についての検討. *脳卒中* 31: 10-14, 2009
- 2) 緒方利安, 矢坂正弘, 湧川佳幸, 井林雪郎, 岡田 靖. エダラボンの軽症脳梗塞患者に対する効果について 高血糖を呈した症例での検討 . *脳卒中* 30: 45-49, 2008
- 3) 七田 崇, 緒方利安, 矢坂正弘, 卯田 健, 井上 亮, 井林雪郎, 飯田三雄, 岡田 靖 . 放射線照射に起因したと思われる頸動脈病変を伴う脳梗塞の1例 - 経口腔頸部血管超音波検査(TOCU)の有用性 - . *脳卒中* 30: 500-504, 2008

(3)英文症例報告

- 1) Ogata T, Kamouchi M, Kitazono T, Kuroda J, Ooboshi H, Shono T, Morioka T, Ibayashi S, Sasaki T, Iida M. Cerebral venous thrombosis associated with iron deficiency anemia. *J Stroke Cereb Dis* 17: 426-428, 2008

(4)和文症例報告

- 1) 中根 博, 北山次郎, 三原 太, 前田亘一郎, 井林雪郎. 単純MRIで確認された排便時のいきみで発症した低髄液圧症候群. *神経内科* 69: 202-204, 2008

(5)和文総説・その他

- 1) 井林雪郎. 生活習慣を改善して脳卒中発症を防ぐ. *読売新聞* 2月29日号, 2008
- 2) 井林雪郎. 脳卒中について - その病態と多面的治療の実際 - . *九州学士会報* 20: 5-6, 2008
- 3) 井林雪郎. 脳卒中における血圧管理の現状と将来. *脳卒中* 30: 841-845, 2008

- 4) 井林雪郎.<インサート>脳卒中慢性期に求められる治療とは . Medical Tribune 12月18日号, 2008
- 5) 井林雪郎.編集後記 . BRAIN RESCUE 18: 27, 2008
- 6) 井林雪郎.質疑応答 . 脳梗塞の収縮期血圧の上限のコントロール . 日本医事新報 4403: 90-91, 2008
- 7) 井林雪郎.<インサート>脳卒中発症率・死亡率の変遷と新しい予防対策 . 日経メディカルオンライン 6月20日号: 1-3, 2008
- 8) 井林雪郎.新入会員紹介 . 筑紫医師会報 筑紫 178: 29-30, 2008
- 9) 井林雪郎.脳血管障害、腎機能障害、末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン(JCS2008) . Circulation Journal 72: 1487-1489, 2008
- 10) 井林雪郎.脳血管障害、腎機能障害、末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン(JCS2008) - ダイジェスト版 - . Circulation Journal 72: 1559-1560, 2008
- 11) 井林雪郎.脳卒中再発予防 . 脳卒中 30: 938-942, 2008
- 12) 井林雪郎, 里宇明元, 長谷川泰弘, 藤本俊一郎.<座談会>脳卒中とリハビリテーション . 脳と循環 13: 199-206, 2008
- 13) 桑城貴弘, 井林雪郎.脳梗塞とHDL-C低値 . 成人病と生活習慣病 38: 146-152, 2008
- 14) 黒田淳哉, 井林雪郎.話題の海外文献紹介 . Stroke 2007;38:1655-1711 . 虚血性脳卒中の初期治療に関するガイドライン 2007 . BRAIN RESCUE 17: 16-17, 2008
- 15) 山口武典, 井林雪郎, 松本昌泰, 土橋卓也.<座談会>久山町研究にみる厳格な降圧の意義 - 脳卒中予防の観点から - . Nikkei Medical 2: 101-104, 2008
- 16) 松本昌泰, 北徹, 内山真一郎, 峰松一夫, 寺山靖夫, 井林雪郎, 高木誠, 北川一夫, ほか多数.脳血管疾患の再発に関する高脂質血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究(J-STARS).平成 18 年度総括・共同研究報告書 (2009 年、8 月発刊)
- 17) 松本昌泰, 井林雪郎.<対談>脳卒中再発予防への治療戦略 - 危険因子の観点から - . Pharma Medica 26: 155-159, 2008
- 18) 秦 淳, 久保充明, 二宮利治, 米本孝二, 松下知永, 北園孝成, 井林雪郎, 飯田三雄, 中村祐輔, 清原 裕.第 33 回日本脳卒中学会講演シンポジウム V . AGTRL1 遺伝子の一塩基多型(SNP)が脳梗塞の発症に及ぼす影響 . 脳卒中 30: 891-896, 2008
- 19) 石松義弘, 井林雪郎.ARB, ACE 阻害薬および二剤併用による心血管系イベント抑制効果 . 分子脳血管病 7: 454-456, 2008
- 20) 石川英一, 井林雪郎.脳血管障害合併軽症高血圧における降圧療法 . 日本臨牀 66: 1560-1565, 2008
- 21) 棚橋紀夫, 井林雪郎, 熊谷裕生.<座談会>MetS を Target とした脳卒中抑制戦略 - ARB の役割はいかに - . Medical Tribune 4月10日号: 1-4, 2008
- 22) 田中耕太郎, 北風政史, 井林雪郎, 内山真一郎, 岡田 靖.<座談会>虚血部位で何が起きているのか? - 脳虚血に対する PDE 阻害薬と血漿中アデノシンの協調作用の考察 - . Nikkei Medical 3: 212-217, 2008

- 23) 島田和幸, 松本昌泰, 井林雪郎.<座談会>脳卒中再発予防へのアプローチ - エビデンスからの考察 - .Pharma Medica 26: 119-123, 2008
- 24) 藤田敏郎, 大塚邦明, 浦 信行, 井林雪郎, 光山勝慶.<座談会>ACE 阻害薬と Ca 拮抗薬の役割を再考する .Pharma Medica 26: 85-90, 2008
- 25) 北園孝成, 久保充明, 秦 淳, 井林雪郎, 清原 裕, 飯田三雄 .脳血管障害の分子疫学 : 久山町研究と福岡脳卒中データベース研究(FSR).臨床神経 48(11):892-895. 2008
- 26) 北園孝成, 井林雪郎 .MetS と脳イベント .Angiotensin Research 5: 187-190, 2008
- 27) 牧原典子, 井林雪郎 .WASID 試験 : 頭蓋内主幹動脈病変を有する患者における降圧治療と脳梗塞再発の検討 .脳と循環 13: 247-250, 2008
- 28) 堀内正嗣, 井林雪郎, 内山真一郎 .<座談会>脳卒中再発予防のストラテジー .新たな大規模臨床試験から得たもの .Pharma Medica 26: 111-114, 2008
- 29) 井林雪郎.血圧測定が意味すること - 新たなエビデンス創出にむけて - .AT-877 注 Clinical News Letter 10: 巻頭言 1, 2009
- 30) 井林雪郎.高血圧患者の脳循環代謝と降圧管理.脳と循環 14: 23-26, 2009
- 31) 井林雪郎.脳梗塞急性期における血圧管理のあり方.AT-877 注 Clinical News Letter 11: 巻頭言 1, 2009
- 32) 井林雪郎.Keyword Update: 脳保護作用.The Preventers 1: 11, 2009
- 33) 鍵山智子, 井林雪郎.修正可能な危険因子. 1.高血圧.からだの化学 260: 132-136, 2009
- 43) 大崎光彦, 井林雪郎.急性期脳卒中における高血糖管理 : いかん、どのタイミングで、いかなる患者に? .分子脳血管病 8: 94-98, 2009
- 35) 棚橋紀夫, 松本昌泰, 寺山靖夫, 井林雪郎.『Stroke Expert Network』創刊にあたって.Stroke-Expert Network 創刊準備 3月号: 1-7, 2009
- 36) 渡邊義将, 井林雪郎.高リスク患者の心血管イベントに対するテルミサルタン、Ramipril または両者併用療法の抑制効果の比較.脳と循環 14: 77-80, 2009

(6)和文著書

- 1) 井林雪郎.高血圧性脳症 .今日の資料指針 2009 年版, 山口 徹 他(編), 医学書院, 東京, p666, 2009
- 2) 井林雪郎, 島田和幸.脳卒中の一次,二次予防は Ca 拮抗薬 or RAS 抑制薬? .循環器デバイス・カンファレンス : 10 周年記念記録集: p41-43, 2008
- 3) 熊井康敬, 井林雪郎.高血圧性脳症.神経疾患最新の治療 2009-2011, 小林祥泰、水澤英洋(編), 南光堂, 東京, p323-326, 2009
- 4) 中村晋之, 井林雪郎, 金 大成.データバンクにおける脳梗塞病型別頻度と久山町における時代的推移.脳卒中データバンク 2009, 小林祥泰(編), 中山書店, 東京, p58-59, 2009
- 5) 牧原典子, 井林雪郎.脳卒中の予防のための高血圧管理 : 至適血圧や降圧薬の種類を含む最近の考え方について教えてください .脳卒中診療 - こんなときどうする Q & A , 棚橋紀夫 他(編), 中外医学社, 東京, p228-230, 2008

(7)国際学会

- 1) Imamura T, Doi Y, Arima H, Yonemoto K, Hata J, Tanizaki Y, Ibayashi S, Iida M, Kiyohara Y. Low-density-lipoprotein cholesterol and the risk of ischemic stroke with or without diabetes in a general Japanese population: the Hisayama Study. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, 2008, 9
- 2) Ooboshi H, Ishikawa E, Kumai Y, Takada J, Nakamura K, Sugimori H, Kamouchi M, Kitazono T, Ibayashi S, Iida M. Neuroprotection and neurogenesis by post-ischemic gene transfer of midkine. <poster>. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, 2008, 9
- 3) Ooboshi H, Ota K, Kusuda K, Ishikawa E, Kumai Y, Kamouchi M, Kitazono T, Ibayashi S, Iida M. Treatment of post-stroke depression during rehabilitation - A preliminary randomized study with SSRI. <poster> 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, 2008, 9
- 4) Fujimoto S, Okada Y, Wakugawa Y, Yasaka M, Fujii K, Nakane H, Ishitsuka T, Tamaki K, Ibayashi S, Sadoshima S. Clinical course and outcome of Japanese minor stroke. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, 2008, 9

(8)国内学会

- 1) 井林雪郎. メタボリックシンドロームと脳卒中：新たな危険因子と多面的治療. <ランチョンセミナー>. 第28回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, 2008, 5
- 2) 北園孝成, 久保充明, 秦 淳, 井林雪郎, 清原 裕, 飯田三雄. 脳血管障害：基礎と臨床の最前線 - 脳血管障害の分子疫学：久山町研究と福岡脳卒中データベース研究 (FSR). <シンポジウム>. 第49回日本神経学会総会, 横浜, 2008, 5
- 3) 井林雪郎. 脳卒中の病態と Pleiotherapy：無症候性脳梗塞との関わり. <ランチョンセミナー>. 第17回日本脳ドック学会総会, 郡山, 2008, 6
- 4) 井林雪郎. 脳卒中の病態と Pleiotherapy (多面的治療). <特別講演> 第2回更年期と加齢のヘルスケア学会 (九州セミナー講演会), 福岡, 2009, 3
- 5) 井林雪郎. 多面的治療下の降圧と脳卒中予防. <ランチョンセミナー>. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 2009, 3
- 6) 黒川徹, 横溝裕子, 由茅直子. 発達障害の原因：出生前要因 第50回日本小児神経学会総会, 東京, 2008, 5
- 7) 黒川徹. 発達障害における最近の動向：原因、臨床像と訓練の実際. 第378回福岡地区小児科医会学術集会 特別講演, 福岡, 2008, 7

(9)研究会講演

- 1) 井林雪郎. 脳卒中の病態と Pleiotherapy：とくに降圧薬 ACEI を中心に. 協和発酵工業九州支部講演会, 福岡, 2008, 5
- 2) 井林雪郎. 脳卒中の病態と Pleiotherapy. 岡山県医師会「脳卒中セミナー」講演会, 倉敷, 2008, 6

- 3) 井林雪郎.製品情報説明についての実践研修会.福岡 MR 実践研修勉強会,福岡,2008,6
- 4) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotropic Therapy.第2回 Shizuoka Stroke Seminar,静岡,2008,7
- 5) 井林雪郎.高血圧の Next Stage へ - 脳領域の立場から.MICARDIS Evidence Forum,福岡,2008,7
- 6) 井林雪郎.脳卒中予防の Best Medical Treatment.日本医師会 高血圧学術講演会,水戸,2008,7
- 7) 井林雪郎.脳卒中予防の Pleiotherapy.北海道その他5市医師会 第8回空知ブレインアタックフォーラム,滝川,2008,7
- 8) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.北海道/札幌市医師会「北海道-脳と循環」講演会,札幌,2008,7
- 9) 井林雪郎.脳卒中の病態と臨床研究.第56回福岡心臓血管研究会(九大循内主催),福岡,2008,7
- 10) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy - 降圧治療を中心に -.第2回川崎ブレインサイエンスセミナー,横浜,2008,7
- 11) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.桃生郡医師会学術講演会,東松島,2008,9
- 12) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.岩手県医師会 第3回岩手動脈硬化研究会,盛岡,2008,9
- 13) 井林雪郎.高血圧と大規模臨床試験-ONTARGET 試験の知見から-「脳内科の立場からどう考えるのか?」.第6回九州・腎と高血圧研究会,福岡,2008,9
- 14) 井林雪郎.脳卒中の病態と再発予防.第68回筑紫地区病院薬剤師勉強会,大野城,2008,10
- 15) 井林雪郎.脳卒中の診断と再発予防.筑紫医師会 筑紫地区学術講演会,筑紫野,2008,10
- 16) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy 降圧治療を中心に -.Mie Stroke Forum,津,2008,10
- 17) 井林雪郎.脳卒中の病態と多面的治療(Pleiotherapy).佐賀県医師会 学術講演会,佐賀,2008,4
- 18) 井林雪郎.脳卒中の病態とリスクファクター.脳卒中のリスクファクターを考える研究会,熊本,2008,11
- 19) 井林雪郎.脳卒中の発症・再発を防ぐ為に.メディカルフィットネスあいあい倶楽部 第2回健康教室講演会,大野城,2008,11
- 20) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.福岡徳洲会病院 学術講演会,春日,2008,11
- 21) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.福島県喜多方医師会 学術講演会,喜多方,2008,12
- 22) 井林雪郎.ARB と脳循環研究.第8回東北心不全協議会 学術講演会(東北大学循環器内科),仙台,2008,12
- 23) 井林雪郎.JUPITOR を踏まえた脳卒中治療の考え方.A to Z 勉強会,福岡,2009,1
- 24) 井林雪郎.高血圧など生活習慣病と脳卒中のお話.早良区健康づくり実行委員会講演会(福岡市早良区保健福祉局),福岡,2009,2

- 25) 井林雪郎.脳卒中の病態と Pleiotherapy.鳥取市勤務医会 鳥取東部神経内科セミナー
講演会,鳥取,2009,3

(10)論文査読

- 1) 脳卒中：井林 - 2 編，渡邊 - 1 編，横山 - 1 編
- 2) 脳循環代謝：井林 - 2 編

基本方針

1. 対象者の意志を大切にすることを念頭におき、その人が自分の生活の場で再び生活できる（適応）よう、セルフケア能力の向上のために看護を実践する。
2. 障害を受け入れ（適応）病気の中に意味を見いだすことができるような看護を実践する。
3. 障害を持った人々の自立へ向けて、機能回復から社会への統合まで、一貫した看護を実践するために、日々アセスメントと介入技術の向上に努める。
4. 看護の重要概念である「人間・健康・環境・看護」について研究活動を行い看護の発展に、ひいては人々の健康と幸福のために、日々研鑽する。

特徴や活動内容

看護部の「セルフケアの再獲得と適応促進への援助を行い、患者さんと家族の自立を目指した看護を実践します」という理念を、実践の中で具体的に展開していくために、平成 10 年からロイ適応看護モデル（The Roy Adaptation Model）を基盤とした看護を実践している。また、平成 17 年 10 月に電子カルテシステム導入されたが、このシステムの看護記録は、ロイ適応看護モデルが基盤となっている。

9 月には、米国ボストンの Massachusetts General Hospital で開催された第 9 回 RAA（Roy Adaptation Association）Conference において Award Paper を受賞した（演題名：“Application of the Roy Adaptation Model in HER in a Japanese Rehabilitation Hospital The Japan”）。この研究は、聖マリア学院大学 日高艶子准教授とともに、当院でロイ適応看護モデルを実践し電子カルテ記録まで発展させてきたことを背景に現段階の看護介入の評価について報告したものである。長年にわたり看護師が患者を詳細に観察し看護を展開してきたことが、今回の受賞につながった。今後もロイ適応看護モデルを臨床で展開し、看護の質の向上につなげていきたいと考えている。

院内における教育活動としては、臨床教育を職種別（看護師・准看護師・介護福祉士・看護助手）に継続的に行った。また、月 1 回ケーススタディを行いリハビリテーション看護の質の向上に努め、その成果は日本リハビリテーション看護学会、日本臨床医療福祉学会、日本看護管理学会等で報告している。

BSC

平成 20 年度の看護部方針 5 項目を掲げ、目標を達成するための活動を行い、12 ヶ月後に達成率を算出した。

1. 患者満足度の向上
看護接遇の強化
目標値：看護管理者による月 2 回の病棟巡視

病棟巡視回数：達成率 100%

2. 強い経営体質

回復期リハビリテーション病棟の効率的運営

目標値：新規入院患者のうち重症患者の割合が 15%以上

重症患者の割合：達成率 100%

3. 業務の効率化

看護診断の見直し（電子カルテの機能向上）

目標値：新規看護診断の作成 5 件以上

新規看護診断の作成数：達成率 80%

4. 安全・安心な質の高い医療

安全なケアの提供（転倒・転落事故による骨折件数の減少）

目標値：事故レベル 3 の事故件数年間 7 件以下

転倒・転落事故による骨折件数：達成率 100%

5. 職員の知識・技術の向上

学会発表、学会参加・研修会参加

目標値：年間 30 人以上の参加

参加人数：達成率 80%

業績

(1)論文

- 1) 遠藤由香, 恵良知子, 日高艶子. 日常生活能力の回復が Self-Esteem に与える影響 - 重度の失語症を呈しコミュニケーション障害をきたした一事例 - . 第 7 回日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 : 85 - 87 , 2008

(2)学会発表

- 1) Hidaka T , Miyabayashi I , Kanayama M . Application of the Roy Adaptation Model in the HER in a Japanese Rehabilitation Hospital-The Japan . The 9th Annual Roy Adaptation Association Conference , Boston , 2008 , 9
- 2) 金山萬紀子, 日高艶子, 西口宏美. 脳卒中患者の FIM による ADL の予後予測の検討. 第 12 回日本看護管理学会年次大会, 東京, 2008, 8
- 3) 中島峰子, 井手梢, 中藤ひとみ, 日高艶子, 前頭葉損傷患者の行為の誤りへの気づきを促す看護介入の一考察 - 動作誘導の口頭指示から鏡の活用へ - . 第 6 回日本臨床医療福祉学会, 鳥取, 2008, 8
- 4) 池嶋優美, 西川健一. 失語症によりコミュニケーション障害をきたした患者への看護介入の一考察 - 視覚手段を用いた介入方法. 第 6 回日本臨床医療福祉学会, 鳥取, 2008, 8
- 5) 清佑洋子, 清水豊子. 急性散在性脳脊髄炎による反射性尿失禁をきたした患者への排尿誘発を試みた看護介入の一考察. 第 6 回日本臨床医療福

社学会，鳥取，2008，8

- 6) 中村真紀．入退院システムによるシームレスケアの実際．第6回日本臨床医療福祉学会，鳥取，2008，8
- 7) 遠藤由香，恵良知子，日高艶子．日常生活能力の回復が Self-Esteem に与える影響 - 重度の失語症を呈しコミュニケーション障害をきたした一事例．日本リハビリテーション看護学会第7回学術大会，神奈川，2008，11
- 8) 中藤ひとみ，日高艶子，小浜さつき，中村真紀．注意障害患者の看護介入に関する研究 - 食事行為における環境調整 - (第2報)．第28回に本看護科学学会学術集会，福岡，2008，12

(3)総説・その他

- 1) 遠藤由香，恵良知子，中村真紀．身体半側無視を呈した患者の移動動作獲得に向けた看護介入 - Self-esteem の低下が予測された一事例への視覚刺激の活用．リハビリナース 1：93 - 97，2008
- 2) 金山萬紀子．病棟の物理的環境，患者・看護師の要因，職場環境への取り組みで転倒減少．臨床看護 35：345 - 362，2009

(4)その他の活動

- 1) ふれあい看護体験
筑紫高等学校 1 名，福岡海星女子学院高等学校 1 名，武蔵台高等学校 2 名，九州産業大学附属九州産業高等学校 2 名，2008.5.14(水)
- 2) 職場体験
 - ・福岡市立日佐中学校 2 年生 8 名，2008.6.25(木)～26(金)
 - ・太宰府市立学業院中学校 3 年生 7 名，2008.7.8(火)～9(水)
 - ・大野城市立大野南小学校 6 年生 6 名，2009.1.31(木)

<基本方針>

- ・ 小児から成人の障害を持った方に対して、入院から在宅にいたる連携の取れたリハビリテーションを実施する。
- ・ 発症後の亜急性期から回復期では、最大限の機能回復と活動能力の獲得を積極的に行う。
- ・ 維持期では更なる機能向上と、環境適応能力の拡大を図る。
- ・ ボバーズ概念を基礎とした神経リハビリテーションを展開し質の高い日常生活の獲得を目指す。
- ・ 行動障害に対して応用行動分析により社会適応行動を支援する。
- ・ 地域社会との連携をとりながら、ここのニーズや状況に応じた在宅復帰や社会参加を支援する。
- ・ リハビリテーションの効果の検証に積極的に努める。
- ・ 臨床に根ざした学術研究および研修活動を積極的に行う。

<特徴や活動内容>

2008年4月1日現在、理学療法士（PT）65名、作業療法士（OT）63名、言語聴覚士（ST）27名、総勢156名で、8名から開始したリハビリテーション部（以下、リハビリ部）は、20年経過し単独施設内のセラピスト数は西日本最大となった。この豊富なセラピストを動員し、当院のリハ部は、個々の患者さんのニーズを尊重しながら量と質のリハビリテーションの提供をスローガンとして、一丸となって対象者の日常生活、社会生活の再建に取り組んでいる。

リハ部は、患者さんの治療は当然のことながら、臨床・教育・研究という3つ柱をもとに取り組んでいる。

臨床:116床ある回復期リハビリテーション病棟を中心とした入院診療、退院後在宅生活をしながら機能回復・維持に努める成人に対する外来診療、肢体不自由児・自閉症を中心とした発達障害児に対し機能回復や就園・就学への援助に努める小児に対する外来診療の3つの領域において、本年度から専門性を重視し、各セラピストを専従配置した。入院診療では、セラピストを病棟に専従として配属し、病棟スタッフと綿密な連携に基づくチームアプローチによって患者の最大限の機能回復を目指している。また、成人外来診療では、退院時期の早期化に伴い、積極的な機能回復に携わったり、また、セルフケアの自立により家庭復帰した患者さんに対し、社会復帰を目指したりリハビリテーションを行っている。小児外来診療では、これまでの肢体不自由児に対する身体障害のリハビリテーションに加え、最近増えつつある自閉症児や学習障害児などの発達障害に対するリハビリテーションについても積極的に行っている。

また、病院リハビリテーションとの関連部門として、介護保険による通所リハビリテーション（PT・OT・ST合計7名）、訪問リハビリテーション（6名）

も積極的に実施しており、それらとの連携により、在宅生活へのソフトランディング、在宅生活の質の向上を図りながら、様々な領域からの積極的なリハビリテーションにより、障がいを持っても安心して生活を送れるよう援助している。

上記以外にも周辺地域での介護予防教室や療育事業にも積極的に協力し、地域との連携を大切にしている（業績（1）参照）

教育：卒前教育として、学生の臨床実習を積極的に引き受け、セラピストになる過程で重要な臨床場面での教育の一端を担っている（業績（2）参照）。卒業教育としては、誠愛リハビリテーション研修会として、内外の講師を招き、様々な領域にわたる多くの研修会を企画、実施しており、年間約 1,000 人のリハビリテーション関連職種の方々の参加をいただいている（業績（3）参照）。また、綿密な計画に基づき、年間を通じて職員教育にも取り組み、多くのスタッフの均一な質の向上に努めている。

研究：リハビリテーションの世界でも EBM の重要性は言うまでもないが、当院においても臨床の実践のみならず、その効果についての検証にも積極的に取り組んでいる。特に、三次元動作解析装置(VICON 社：赤外線カメラ 14 台、床反力計 6 台)や、近赤外線イメージング装置（NIRS：(株)島津製作所製）などの先端機器を導入して、客観的根拠に基づいたリハビリテーションの実践や効果判定に活用し、多くの学会発表を行っている（業績（4）参照）。

< 業績 >

(1) 地域派遣業務

- ・介護予防事業（転ばん塾）：理学療法士、月 2 回（年 24 回）、春日市いきいきプラザ
- ・介護予防事業（運動講座）：理学療法士、年 10 回、春日市いきいきプラザ
- ・機能訓練事業（くれんよクラブ）：理学療法士・作業療法士、週 1 回（月・木）・月 1 回（火）、春日市パレット館
- ・介護予防事業（長生きがい教室）：理学療法士・作業療法士、各年間 6 回、筑紫野市の 4 隣保館
- ・子ども療育相談：作業療法士・言語聴覚療法士、月 2 回・月 1 回、筑紫野市カミーリア
- ・3 歳児検診（ことばの相談）：言語聴覚療法士、月 2 回、筑紫野市カミーリア

(2) 臨床実習

臨床実習受け入れ養成校

養成校名	P T	O T	S T
青照館	1		
朝日リハビリテーション専門学校	1		
麻生リハビリテーション専門学校		1	1
大分リハビリテーション専門学校		1	

大阪リハビリテーション専門学校		1	
沖縄リハビリテーション福祉学院	1		1
鹿児島医療技術専門学校			1
鹿児島大学		2	
川崎医療福祉大学	1		
吉備国際大学	1		
高知リハビリテーション学院		1	
帝京大学		1	
長崎リハビリテーション学院	1	1	1
西日本リハビリテーション学院	1		
広島大学		1	
福岡国際医療福祉学院	1		1
柳川リハビリテーション学院	1	1	
山口医療福祉専門学校	1		
計	11	11	5

(3) 誠愛リハビリテーション病院研修会

ポスター講習会関連

上級者講習会	8月4日(月)～8月8日(金) インストラクター：森之宮病院副院長 紀伊克昌先生
上級者講習会	12月2日(火)～12月6日(土) インストラクター：Gerlinde Haase 女史
基礎講習会 A	前半：6月23日(月)～7月4日(金) 後半：11月10日(月)～11月14日(金) コースリーダー：誠愛リハビリテーション病院 瀧雅子
基礎講習会 B	前半：9月15日(月)～9月26日(金) 後半：平成21年1月19日(月)～1月23日(金) コースリーダー：誠愛リハビリテーション病院 林克樹

その他 研修会

開催日	内容・講師・申込期間
6月7・8日(土・日)	「高次脳機能研修会」 講師：誠愛リハビリテーション病院 瀧雅子他
7月19・20日(土・日)	「上肢・手研修会」 講師：誠愛リハビリテーション病院 林克樹他
7月26・27日(土・日)	「PNF研修会」 講師：福岡保健学院

	八千代リハビリテーション学院 今井基次先生
8月2・3日(土・日)	「小児研修会」 講師：森之宮病院副院長 紀伊克昌先生
8月16日(日)～19日(火)	「歩行分析研修会」 講師：国際医療福祉大学大学院 山本澄子先生 国際医療福祉大学保健学部 勝平純司先生 新潟医療福祉大学 江原義弘先生
8月30・31日(土・日)	「呼吸研修会」 講師：札幌医科大学保健医療学部理学療法学科 石川朗先生
10月18・19日(土・日)	「CVA研修会」 講師：誠愛リハビリテーション病院 花田美穂他
12月20・21日(土・日)	「脳卒中患者の基本ハンドリング」 講師：誠愛リハビリテーション病院 林克樹他
平成21年1月25日(日)	「摂食嚥下リハビリテーション研修会」 講師：藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科 岡田澄子先生
2月7・8日(土・日)	「日常生活活動の分析と治療的介入研修会」 講師：誠愛リハビリテーション病院 淵雅子 他
2月21・22日(土・日)	「自己の定位 - 無自覚へのアプローチの再検討 - 」 講師：藤田保健衛生大学衛生学部 リハビリテーション学科教授 富田昌夫先生
3月14・15日(土・日)	「歩行分析研修会」 講師：国際医療福祉大学大学院教授 山本澄子先生
3月22日(日)	「脳生理研修会」 講師：日本大学大学院総合科学研究科教授 泰羅雅登先生
4月18・19日(土・日)	「ヒューマンムーブメント研修会」 講師：諏訪赤十字病院 理学療法士 大槻利夫先生

(4)学会発表・著書・総説

学会発表

- 1) 坂口重樹．脳血管障害片麻痺患者における麻痺側支持期の姿勢分析 - 1 症例による経時的变化．第43回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 2) 田邊紗織．脳卒中片麻痺患者の歩行分析 - 1 症例の経時的变化に着目して．第43回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 3) 深堀栄一，清水志帆子，古賀昭臣，坂井伸朗，林克樹，村上輝夫．脳卒中片麻痺患者の上肢治療用リハビリロボットの開発 - 肩甲骨からの制御に着目して（第一報）．第43回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 4) 浜岡秀明，淵雅子，山本澄子．再発性ラクナ梗塞により、右片麻痺を呈した症例の歩き始めと歩行自立度との関係．第43回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5

- 5) 増田良平．片麻痺患者の麻痺側下肢前方ステップ動作の特徴 - 力学的分析による健常者との比較．第 43 回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 6) 林真智子，淵雅子，山本澄子．脳血管障害患者における階段昇降動作の分析 - 手すりの有無による自立度の違いから - ．第 43 回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 7) 大田瑞穂，淵雅子，山本澄子．立位方向転換ステップの動作解析 - 移乗動作自立度の違いによる比較 - ．第 43 回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 8) 長田悠路．片麻痺患者の立ち上がり動作に短下肢装具が及ぼす影響 - Gait Solution Design と Gait Solution の比較 - ．第 43 回日本理学療法士学会大会，福岡，2008，5
- 9) 林克樹，清水志保子，深堀栄一，坂井伸朗，村上輝夫．脳卒中片麻痺患者の上肢治療用ロボット - 肩甲骨制御機構の作製 - ．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 10) 淵雅子，大田瑞穂，山本澄子．下衣着脱動作の分析 - 一側下肢持ち上げ動作時の運動力学的検証 - ．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 11) 長野浩子，淵雅子，末吉さおり，田邊紗織，山本澄子．上衣更衣動作の分析．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 12) 久保拓哉，長野浩子，木下美智子，中川綾子，淵雅子．多彩な高次機能障害を呈した脳卒中患者への髭剃り動作アプローチ - 5 ヶ月の経時的変化を通して - ．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 13) 木下美智子，中川綾子，淵雅子．排泄動作の詳細評価 - 移乗に着目して - ．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 14) 中川綾子，木下美智子，淵雅子．排泄動作における後始末動作への介入の検討 - 排尿後・排便後の後始末動作に着目して - ．第 42 回日本作業療法学会，長崎，2008，6
- 15) 坂口重樹，大田瑞穂，田邊紗織，淵雅子，山本澄子．Analysis of the Relationship between Walking Ability and Sitting Balance in Hemiplegic Patients．第 10 回アジア理学療法学会，千葉，2008，8
- 16) 長田悠路，山本澄子．The Sit-to-walk Motions about Hemiplegic Stroke Patients．第 10 回アジア理学療法学会，千葉，2008，8
- 17) 吉永明史．嚥下障害者の VF 画像の分析 - 喉頭蓋閉鎖不全と誤嚥のリスクとの関連 - ．第 7 回言語聴覚士会九州地区合同学会，宮崎，2008，10
- 18) 内山千帆．支持基底面の変化が MPT に及ぼす影響．第 7 回言語聴覚士会九州地区合同学会，宮崎，2008，10
- 19) 内野裕介．Shaker exercise による血圧の変動．第 7 回言語聴覚士会九州地区合同学会，宮崎，2008，10
- 20) 津波 夏海．咀嚼・嚥下運動 - 口腔器官に失調症状を呈した 1 症例を通して - ．第 7 回言語聴覚士会九州地区合同学会，宮崎，2008，10
- 21) 大田瑞穂．立位方向転換ステップの動作解析 - 前方ステップ・側方ステップとの比較．第 30 回九州理学療法士・作業療法士合同学会，大分，2008，11
- 22) 長田悠路．脳卒中片麻痺患者の座位からの歩き始め動作における姿勢制御 - 運動力学的な分析．第 30 回九州理学療法士・作業療法士合同学会，大分，2008，11
- 23) 浜岡秀明，増田良平，坂口重樹．脳血管障害患者における歩行開始時の分析 - 再発性ラクナ梗塞により右片麻痺を呈した症例を通して．第 30 回九州理学療法士・作業療法士

合同学会，大分，2008，11

- 24) 岩田充史，福田久徳．クライアント中心の作業療法を展開して - 一事例を通して - ．第30回九州理学療法士・作業療法士合同学会，大分，2008，11
- 25) 沢田大明，淵雅子．麻痺手の忘れに対する介入 - 一事例を通して - ．第30回九州理学療法士・作業療法士合同学会，大分，2008，11
- 26) 玉那覇迅，淵雅子．多彩な高次脳機能障害を呈する頭部外傷者への更衣動作アプローチ - 長期的な関わりの必要性 - ．第30回九州理学療法士・作業療法士合同学会，大分，2008，11

著書・総説

- 1) 林 克樹．前頭葉性動作障害．よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション，永井書店，大阪，p453 - 464，2008？
- 2) 淵雅子．作業療法実践におけるエビデンスを考える 身体障害領域における日常生活活動の分析と介入．作業療法ジャーナル 42： 2008
- 3) 淵雅子．作業療法的なりハビリテーション．リハビリナース 1： 2008

【 1 】 経理係・人事係・環境送迎サービス

<基本方針>

法令遵守を基本とした正確迅速な業務遂行
患者さんをサポートする迅速丁寧な行動力

<活動内容>

経理係は、主として三光会の人、物、お金の流れを数値で表し財務データを作成する業務を行っています。モットーは法令遵守、正確、迅速です。

人事係は、三光会職員の給与計算、社会保険手続き等を中心とした労務管理を行う部署です。「職員が安心して働ける職場」を目指して「法令を遵守した公正無私」をモットーとして業務にあたっています。

環境送迎サービスは大きく2つの部門があります。

環境サービスは病院の清掃、設備保全を行っています。病院をご利用いただく患者さんができるだけ快適で安全に過ごせるよう衛生、清潔、整頓を心掛けています。患者の皆様のご意見やニーズによく耳を傾け、汚れたり壊れた箇所の連絡を受けたら急行するよう「すぐやる課」を目指しています。

送迎サービスは開院以来20年近く患者の皆様を送迎を行ってきました。定期的送迎コースだけでなく、患者様の介助にあわせてきめ細かな送迎方法で計画的に送迎しています。これからも、安全、安心、丁寧に患者の皆様に通院の足としてお手伝いをさせていただきます。

【 2 】 医事課

<基本方針>

患者さんから信頼されるクオリティの高い窓口づくり
知識を共有し、全員でスキルアップを図る
健康管理に努め、明るいスマイルで患者さんをお迎えする

<活動内容>

平成20年度は新しく以下の取り組みを行った。

1) 医事業務充実のための増員

- ・受付の窓口業務について外部委託を含めた見直しを行った。
- ・レセプトのチェックに専門員を配置し、請求漏れ等を大幅に改善した。

2) お薬番号札の導入

- ・患者さんにお薬をお渡しするまでの待ち時間対策のためテレビモニターを導入した。番号表示をすることで順番待ちの人数が分かるようになり、その結果、自分のお薬が作られているのか、あとどれくらい時間がかかるのか、といった不安から解消され、待ち時間にゆとりが生まれた。

3) 患者数と請求業務について

患者延人数は、外来患者 60,241 名で前年と比べ 146 名の増加、入院患者は 69,683 名で 600 名の増加となった。患者数の増加により、今後一層、正確な請求業務と診療録の管理が求められる。

4) 研修会・勉強会等の取り組みについて

請求業務に関する知識の向上のために月一度の勉強会を実施した。医療保険制度はますます複雑になっており、また時代に即した制度へと変化するため、常に新しい知識を身につけることが不可欠である。未収金について研修会に参加し、悪質な滞納者に対しては法的アプローチによる督促を含めた強硬な手段も必要であることを確認した。

医療事務の専門学校(2校)から3名の実習生を受け入れた。受付業務や請求業務、レセプト提出業務などを経験させた。実習生を指導することにより、職員の業務再確認や指導力向上などの良い結果を得ることができた。後進の育成のためにも今後も可能な限り受け入れたい。

【3】薬局

<基本方針>

- 安全な薬剤を患者の皆様を提供する(ひやりはっと・事故の減少)
- 医薬品在庫金額5百万円(過剰在庫防止、患者動向の把握)
- スタッフのスキルアップ
- (内部勉強会：業務内容の再確認、メーカーによる薬剤説明会)

<活動内容>

- 外来・病棟、患者の皆様にお薬の情報を提供しています
- 外部勉強会への積極的な参加(他のスタッフへのバクアアップ)

<新たに導入したこと>

- 患者の皆様のお薬待ち時間の負担を軽減す為、錠剤・散剤分包機を新機種へ入れ替え

<業務内容>

外来業務（調剤・監査・投薬・救急カート等薬剤の管理）
病棟業務（調剤・監査・服薬指導・救急カート等薬剤の管理）
カトリア業務（調剤・監査）
その他（入院患者さんの持参薬剤の鑑別）

<医療統計>

外来処方箋枚数 ・ ・ 平均 1,200 枚/月
入院処方箋枚数 ・ ・ 平均 1,900 枚/月
カトリア処方箋枚数 ・ ・ 平均 300 枚/月

【 4 】 検査課

<基本方針>

初めて検査される方や何度か検査をされている方でも、安心して検査を受けられリハビリテーションに専念できるような環境作りに心がけ、患者さんに優しい検査室を目指しています。また常に迅速なデータが提供できるよう努めます。

<活動内容>

患者さんの検査について検体処理から検査や報告、生理検査の予約から検査実施（検査医によるものもあり）からデータ管理までを行っています。また今年度は、病院機能評価受診に向けての準備として業務を見直すとともに前年度から行っている検査室からの情報発信や、検査開始前にも説明を十分行うことにも力を入れました。

<業務内容>

院内検体検査
（血球検査、尿一般検査、便潜血、血液ガス、輸血関係、皮膚等鏡検等）
外注検査（生化学、細菌検査、病理細胞診、ホルター心電図など）
生理検査（心電図、エコー、脳波、眼底検査など）
エコーについては、頸部・心臓・腹部を専門医が施行

<参加研修会>

平成20年4月 治療環境における感染管理の問題点
平成20年6月 医療関係機関等を対象にした特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会

<医療統計>

検体検査（概数）

外注・・・生化学 8,400 件、その他 500 件

院内・・・血球検査 3,400 件、尿検査 2,500 件、便・その他 870 件

生理検査（概数）

心電図検査 800 件、エコー検査 720 件、脳波検査 110 件、眼底検査 30 件

【 5 】検査課放射線係

<基本方針>

最低限の放射線量で最適な医療画像を提供するよう努力します。

個々の患者さんにとって最も有効で苦痛の少ない検査方法を検討し、検査を行います。

医療事故防止に細心の注意を払います。

スタッフ：診療放射線技師 3 名

<活動内容>

業務内容：

撮影業務、画像管理業務、画像コピー作製、委員会活動参加などを行いました。

MRI 室用オキシパルスメータを導入しました。

X線管球支持装置を更新しました。

年間件数（概算）

一般撮影	2 8 0 0 件
ポータブル撮影	1 9 0 件
透視検査	8 0 件
CT 検査	6 5 0 件
MRI 検査	5 3 0 件

【 6 】栄養係

<基本方針>

入院患者さんの病状に応じて安全で適切な食事を提供し、病状回復の促進を図ります。

多職種と協力、連携を図り、チーム医療の一員として、栄養士の専門性を発揮します。

自己研鑽に努め、栄養と食事の専門職としての知識、精神のレベル向上を図ります。

<活動内容>

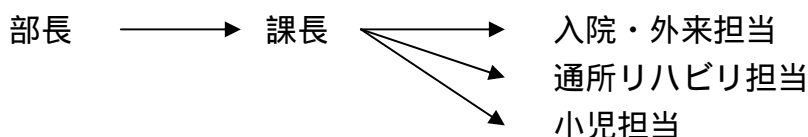
- 全病棟温冷配膳車導入（H20.9月より5・6病棟導入）
- アイオールソフト（高栄養プリン）の導入
- 段階的嚥下食（開始食と嚥下食）の導入
- ソフトバックタイプの濃厚流動食を導入
- 待ち食の提供方法変更（配膳時間2時間後は軽食を用意）
- 栄養指導件数（年間）・・・入院124件、外来1件
- 勉強会・研修会・学会発表等
 - ・食中毒講習会参加（H20.7月）
 - ・部署内勉強会実施（月1回）
 - ・特定健康診査、特定保健指導についての研修会参加（H20.7月）
 - ・効果的な栄養アセスメントの進め方と実践トレーニングについての研修会参加（H20.5月）
 - ・嚥下食についての研修会参加（H20.5月）

【7】福祉課

<部署の基本方針>

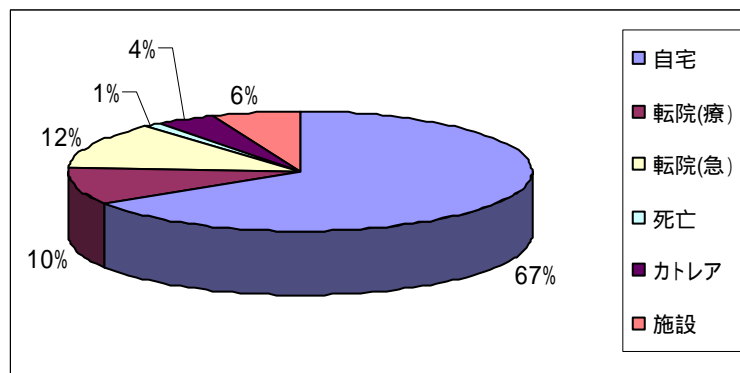
当院の理念に基づき、福祉課内の基本方針として疾病や障害等により生じる患者・家族の抱える諸問題について院内スタッフや行政等との連携を図り、地域で再び生活できるようにサポートしていく。

組織



<部署・課の活動内容>

入院時から患者さんやご家族の相談に応じ、他職種と連携を図り退院までの支援をおこなっていく。また、外来患者さんの在宅生活の相談に応じ、よりよい在宅生活ができるように支援をおこなっていく。
地域との交流や、連携を図り開かれた窓口として活動を行っている。



患者動向

平均在院患者数

新入院患者数

病棟別入院稼働率

病棟別入院・転入患者数

外来平均患者数

外来初診患者数

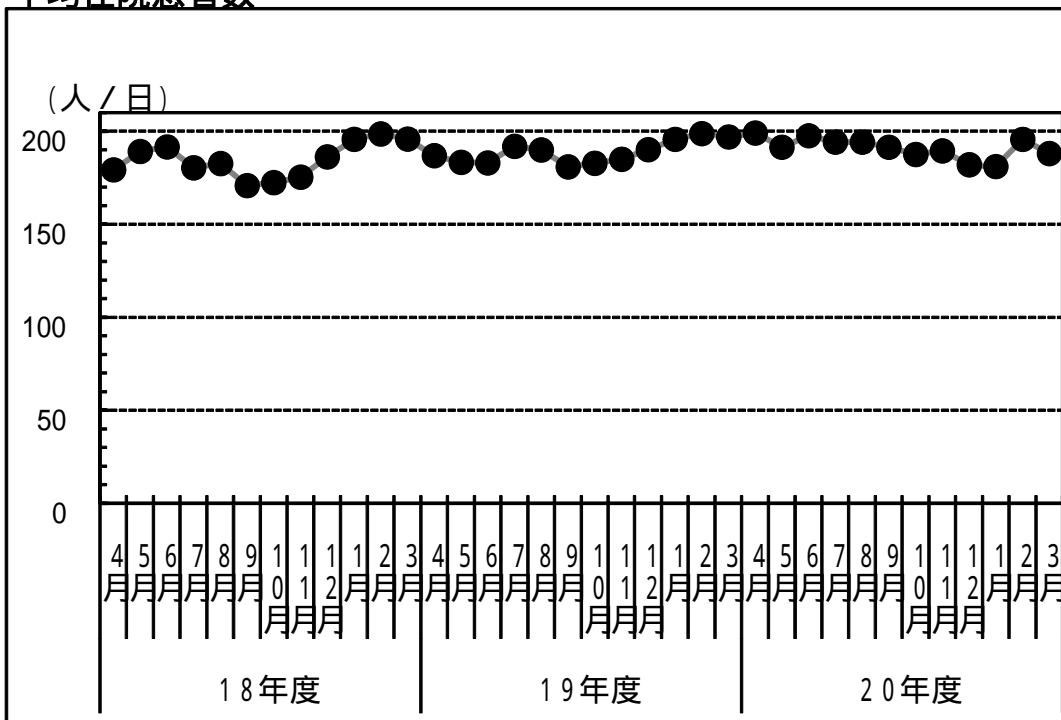
入院感患者 I C D-10 分類別

退院患者 I C D-10 分類別

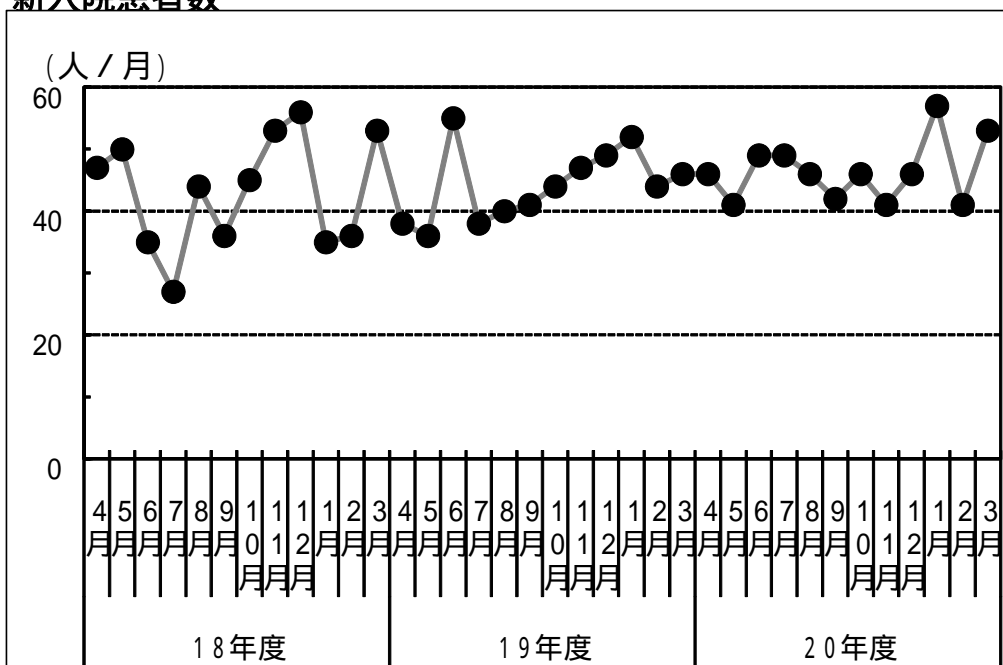
I C D-10 別退院患者平均年齢・平均在院日数

平均在院患者数

平均在院患者数

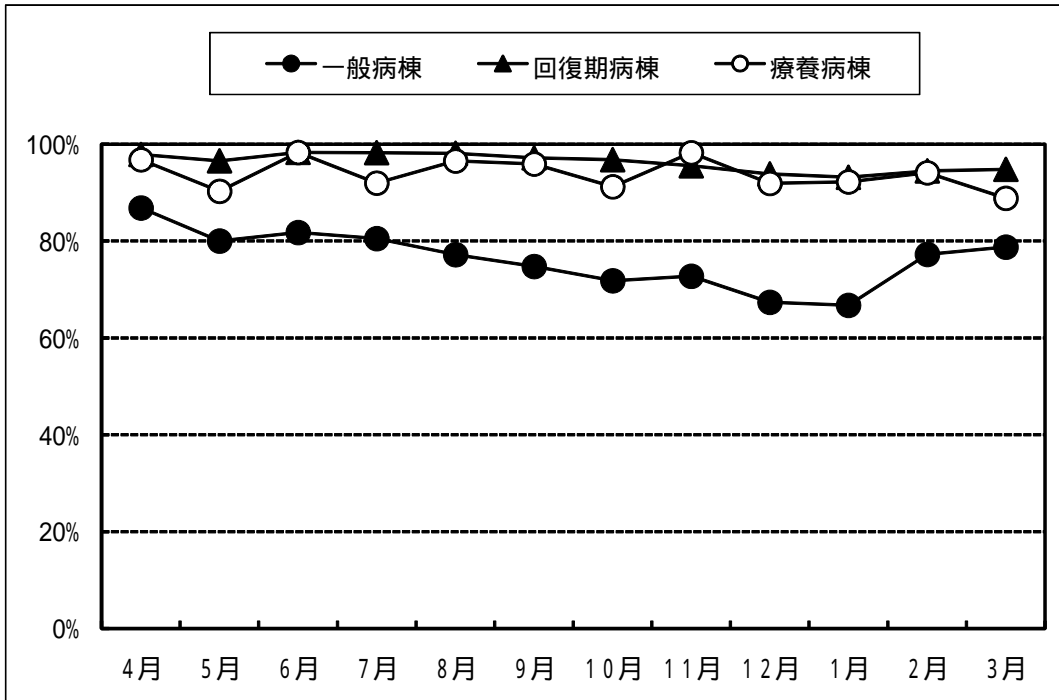


新入院患者数



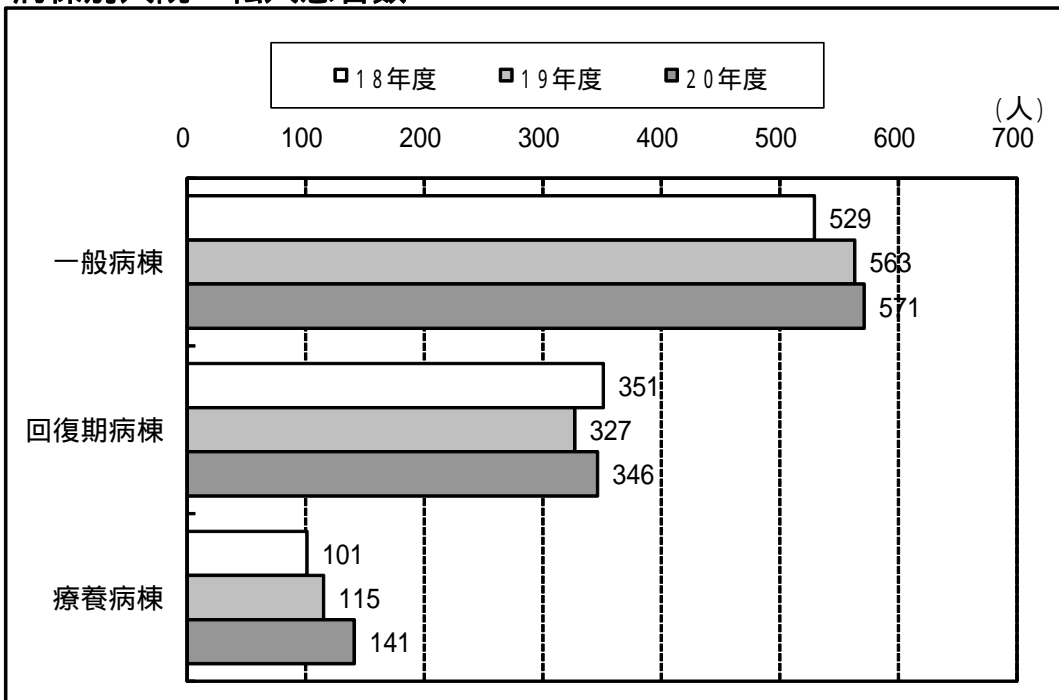
病棟別入院稼働率

平成20年度病棟別入院稼働率



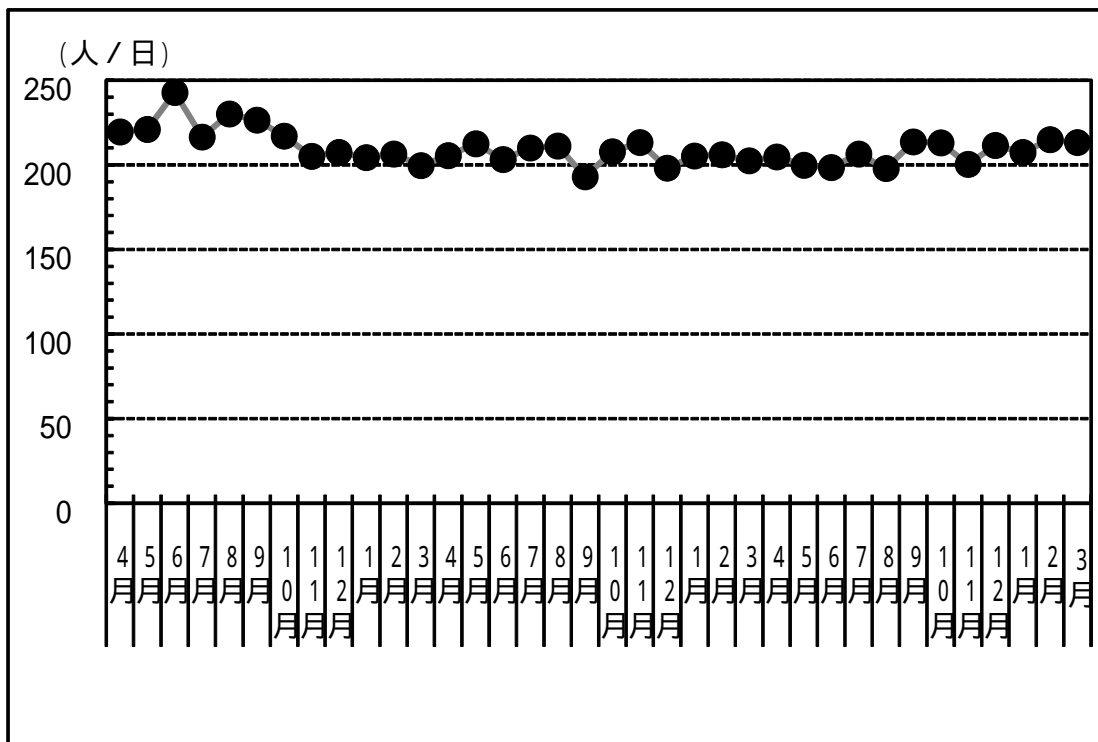
病棟別入院・転入患者数

病棟別入院・転入患者数



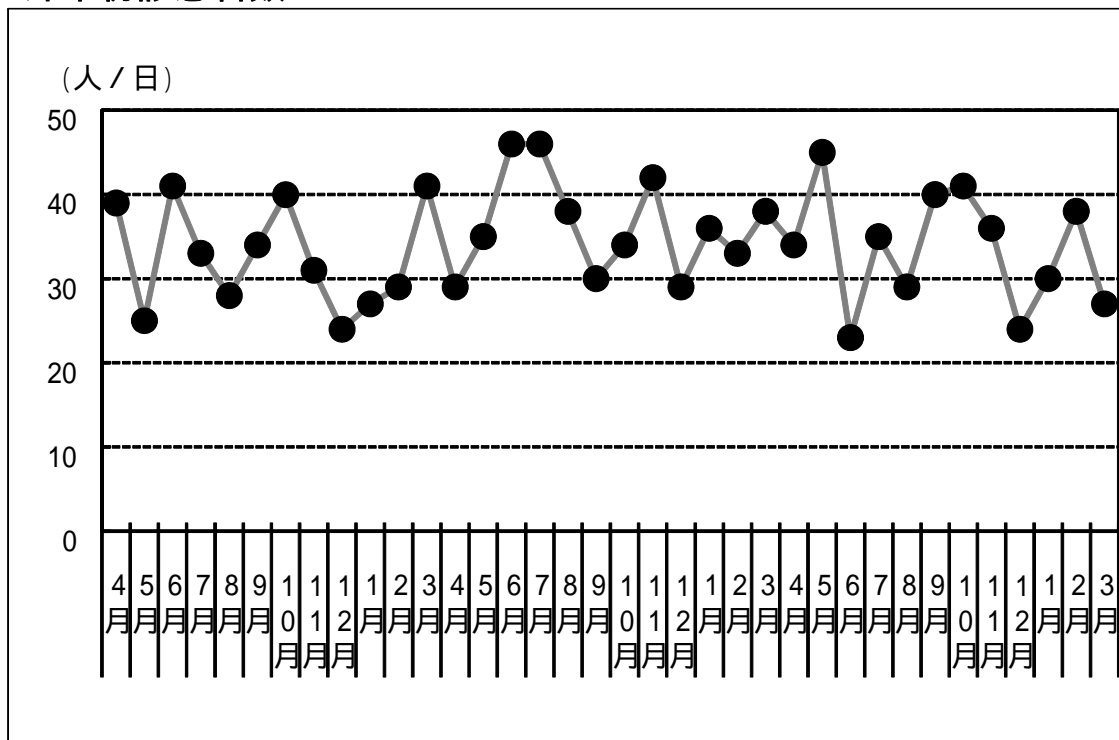
平均外来患者数

平均外来患者数

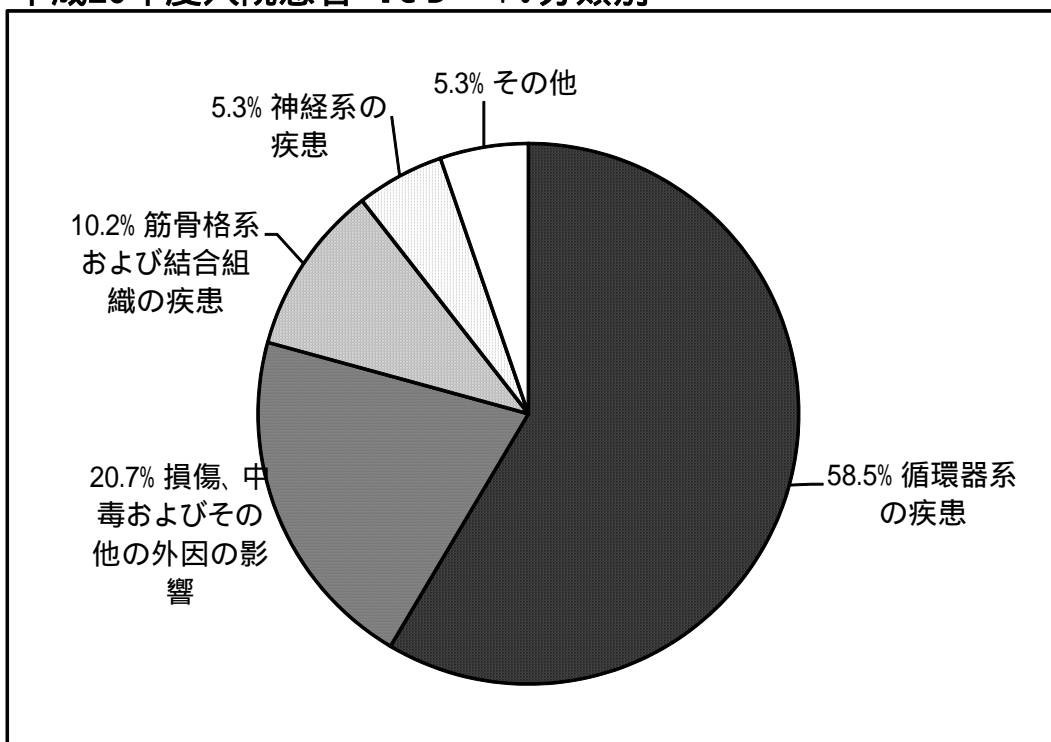


外来初診患者数

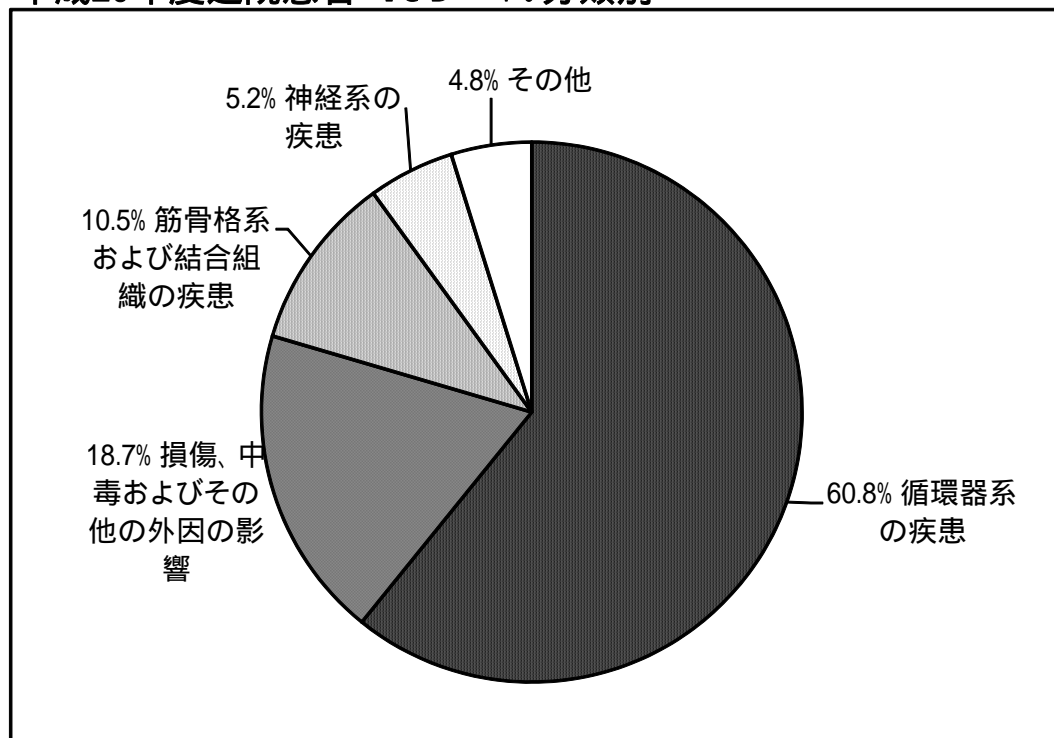
外来初診患者数



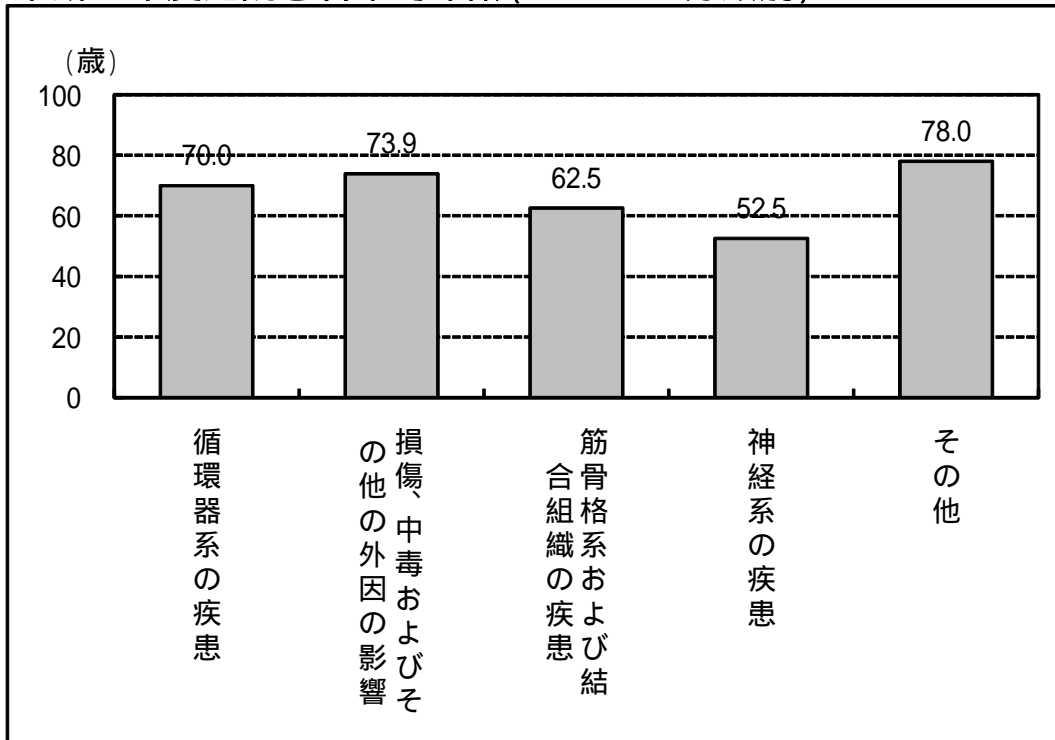
平成20年度入院患者 ICD - 10分類別



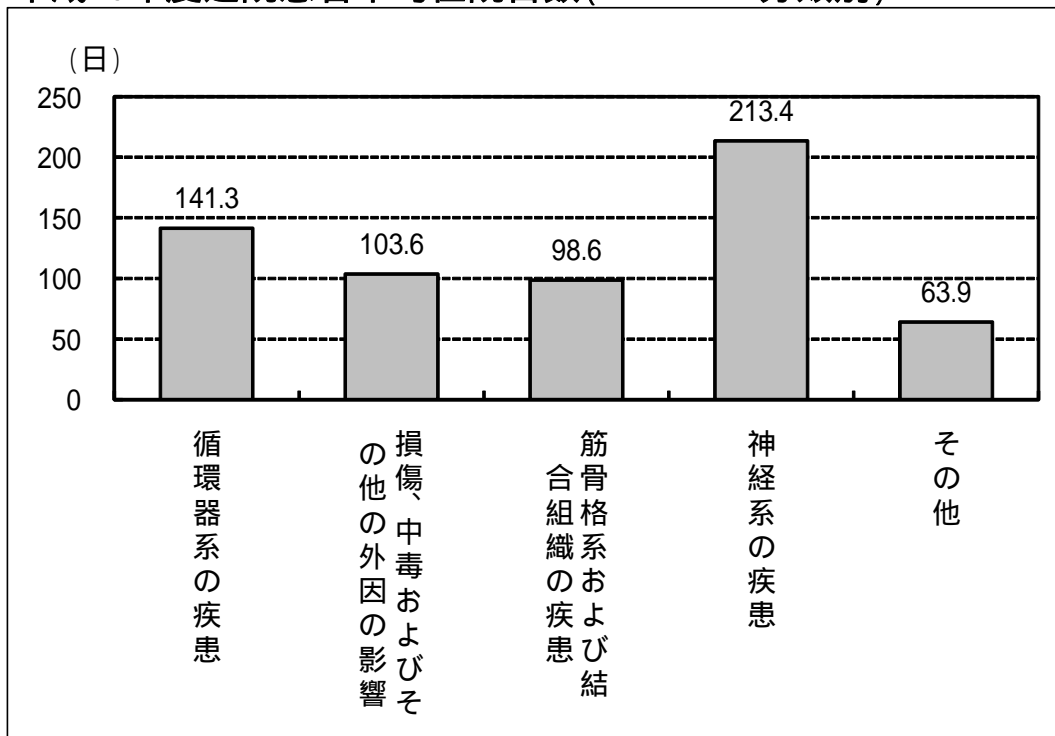
平成20年度退院患者 ICD - 10分類別



平成20年度退院患者平均年齢(ICD - 10分類別)



平成20年度退院患者平均在院日数(ICD - 10分類別)



委員会活動

医療安全管理委員会

事故対策委員会

医薬品安全管理委員会

医療機器安全管理委員会

感染対策委員会

防災委員会

医療ガス安全委員会

労働安全衛生委員会

公用車運行管理委員会

個人情報保護委員会

薬事委員会

給食委員会

カルテ開示委員会

倫理委員会

褥瘡対策委員会

診療録管理委員会

図書管理委員会

広報委員会

環境美化委員会

サービス向上委員会

輸血療法委員会

N S T 会議

誠愛教育委員会

文責：院長 井林雪郎

委員会開催日：平成20年8月4日(月)

構成メンバー：院長(委員長)、医局2名、看護部2名、
リハビリテーション部2名、管理部8名 計15名

活動内容：

病院全体の医療安全に対する職員への啓蒙活動医療安全管理研修会を4回開催している。本年度は、下部組織の感染対策委員会より「最近の結核の動向について」、「院内肺炎について」と「オセルタミビル(タミフル)耐性 インフルエンザウイルス」、事故対策委員会より「脳血管障害患者の転倒要因と対策」、「ワーファリン使用上のリスクマネージメント」のテーマで院内全体出席での研修会を開催した。

<感染対策研修会>

第1回

日時：平成20年9月8日 17:30～
場所：誠愛リハビリテーション病院 研修室
講師：福岡大学病院呼吸器内科 助手 吉村力 先生
テーマ：「最近の結核の動向について」

第2回

日時：平成21年3月16日 13:00～
場所：誠愛リハビリテーション病院 研修室
講師：福岡大学病院呼吸器内科 助手 吉村力 先生
誠愛リハビリテーション病院 副院長、医局 楠田憲治
テーマ：「院内肺炎について」
「オセルタミビル(タミフル)耐性 インフルエンザウイルス」

<事故対策研修会>

第1回

日時：平成20年10月7日 17:30～
場所：誠愛リハビリテーション病院 研修室
講師：誠愛リハビリテーション病院 副院長、看護部 金山萬紀子
テーマ：「脳血管障害患者の転倒要因と対策」

第2回

日時： 平成20年12月9日 17:30～

場所： 誠愛リハビリテーション病院 研修室

講師： 誠愛リハビリテーション病院 内科医師 横山葉子、
エーザイ株式会社共催

テーマ：「ワーファリン使用上のリスクマネジメント」

要旨についてはそれぞれの委員会記録に記載、さらに当院ホームページに掲載

検討事項：医療安全管理委員会の開催日を毎月第1月曜日と決定した。

文責：副院長 金山萬紀子
院長 井林雪郎

委員会開催日：第1・3木曜日
13：00～13：30

構成メンバー：院長（委員長）、名誉院長、
医局1名、看護部3名、リハビリテーション部4名、管理部6名、カトレア1名、通所1名、
あいあい倶楽部1名、日清1名



活動内容：

- ・ 事故分析
各部署から提出されたひやりはっと・事故報告書を集計し、個々の事例に対してメンバーで改善策や対策等を検討している。
- ・ 医療安全研修会
医療安全について研修会を年2回開催している。本年度は、「脳血管障害患者の転倒要因と対策」、「ワーファリン使用上のリスクマネジメント」のテーマで院内全体出席での研修会を開催した。

分析結果：

平成20年度ひやりはっと・事故報告書

部署	レベル ひやり	レベル							計
		0	1	2	3	4	5		
医局	0	0	0	0	0	1	0	1	
看護部	11	13	38	24	4	1	0	91	
薬局	18	2	7	3	0	0	0	30	
栄養	3	14	4	0	0	0	0	21	
リハビリ部	3	12	3	4	0	0	0	22	
カトレア	1	1	2	1	2	0	1	8	
合計	36	42	54	32	6	2	1	173	

■ レベル3以上（確実に患者さんに影響を及ぼしたものは9/173=5%（正に危険率と同じ数字）であった。

検討事項：

・MRI 室用オキシパルスメーターの購入について

重症患者や眠剤投与下で検査を行うため、オキシパルスメーターでの観察が必要であると議題が検査課（放射線室）から提出された。医局会でも検討することとし、その結果、MRI 室用オキシパルスメーターを購入した。

研修会：

第 1 回事故対策研修会

日時： 平成 20 年 10 月 7 日（火） 17：30～18：30

場所： 誠愛リハビリテーション病院 研修室

講師： 誠愛リハビリテーション病院 副院長、看護部 金山萬紀子

テーマ： 脳血管障害患者の転倒要因と対策

参加人数：199 名

要旨：

平成 11 年ごろから医療事故が続発し、医療の質の保証のためにリスクマネジメントの取組みが始まった。川村らの平成 11 年度の「医療のリスクマネジメントシステム構築に関する研究」では、療養上の世話に関連する事例が全体の約 3 割で、その半分以上が転倒転落事例であったと報告している。当院の調査においても、転倒・転落事故が事故報告の約 7 割を占めていた。「転倒」は、頭部外傷や骨折などの重大事故につながるだけでなく、リハビリテーションの阻害因子となる。したがって、転倒を予防し安全に ADL を拡大していくことが看護の重要な役割の 1 つとなることは言うまでもない。そこで、脳血管障害患者の転倒の実態を調査し、転倒要因を明らかにするとともに転倒予防について検討を行った。

転倒の要因については、病棟の物理的環境、患者の要因、看護者の要因、職場環境などが報告されているが、当院においても同様の要因が明らかとなった。転倒予防策として、物理的環境の調整、患者の障害の種類や程度と転倒との関連に対する看護者のアセスメント能力の育成、転倒多発時刻を考慮した看護職員の配置の試みなど、今までの当院の「転倒」の取組みについて紹介した。

第 2 回事故対策研修会

日時： 平成 20 年 12 月 9 日（火） 17：30～18：30

場所： 誠愛リハビリテーション病院 研修室

講師： 誠愛リハビリテーション病院 内科医師 横山葉子、
エーザイ株式会社共催

テーマ： ワーファリン使用上のリスクマネジメント

参加人数：238 名

要旨：

当院はリハビリテーション専門病院として、機能低下のある患者さんに対し、機能改善のためのリハビリテーションを行っている。なかでも

疾患の多くを占める脳卒中については、再発により容易に機能低下をきたすため、リハビリテーションを行いつつその再発を予防することも当院の大きな役割である。脳卒中、特に脳梗塞の再発予防としては、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、喫煙などの危険因子をコントロールするとともに、抗血小板薬、抗凝固薬の内服が必要となる。

今回の研修会では、心原性脳塞栓症の予防の際の治療薬である抗凝固薬「ワーファリン」について知識を深めていただき、その注意点（内服量調整、出血合併症、飲み合わせ等）を理解し、患者さんを取り巻く各スタッフがそれぞれの立場から注意を払うことにより、さらに安全な医療の実現を目指すことを目的とした。

文責：薬剤師 富田由紀

委員会開催日：不定期（報告事項があれば、事故対策委員会にて）

医薬品安全管理者：富田 由紀（薬剤師）

活動内容：

- 1、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成と見直し
- 2、医薬品の業務手順書に基づく業務の実施の定期的確認
- 3、従業者に対する研修の実施

院内研修会：

研修会・・・医薬品の安全使用 従業者に対する研修会の開催

日時：平成 20 年 12 月 9 日

場所：新棟研修室

文責：検査課長 村瀬朗

昨年度より義務付けられました医療機器安全管理の充実を図るために点検を行う機種をどうするか検討すると共に院内に周知徹底するかを課題に取り組んでまいりました。委員会として今後活動をする為に事故対策委員会に報告する形から進めてまいりました。

委員会開催日：不定期（報告事項があれば、事故対策委員会にて）

医療機器安全管理者：村瀬 朗（臨床検査技師）

活動内容：

医療安全に係る安全管理のための体制確保について規定策定見直し
医療機器の保守点検計画書作成
日常点検の整理

院内研修会：

- ・看護
医療機器安全対策（心電図、モニター心電図、除細動器）2008/10/16・11/20
医療機器安全対策（人工呼吸器）2008/10/30・11/27
- ・放射線
新規導入医療機器についての研修会 2008/7/7
MRI についての安全教育研修会 2009/1/9

文責：副院長 楠田憲治

委員会開催日：毎月第2火曜日 13:40～14:00

構成メンバー：医師（委員長）、医師（院長）、管理部長、看護部7名（看護部長および各病棟及び外来からそれぞれ1名）、検査課1名、薬局1名、リハビリ部1名、栄養係1名、

活動内容：

院内感染の予防に留意し、感染症発生の際には拡大防止のため、その原因の速やかな特定・制圧・終息を図る。このため、組織の有効活用と職員一人ひとりのマニュアルの遵守等を徹底し、院内感染対策に努める。

結果：

本年度、入院患者のMRSA感染者数は毎月4人～14名で推移した。そのうち、感染症状があるものが、毎月0～2人見られ、昨年度に比し若干減少していた。入院患者のインフルエンザ発症は昨年に引き続き0名であった。疥癬を発症した患者も0名で、ノロウイルス感染者数も昨年度の15名に比し2名と著しく減少した。

本年度も、院内感染対策講習会が全職員を対象として2回行われた。平成20年9月8日、福岡大学病院呼吸器内科の吉村力先生が「最近の結核の動向」について講演した。

平成21年3月16日には、福岡大学病院呼吸器内科の吉村力先生が「最近の院内肺炎の動向」について、当院内科副院長楠田が「最近の院内感染等」特に、タミフル耐性インフルエンザについて講演した。

院外研修として、平成20年11月23日～24日に大分市で行われた日本感染症学会主催の平成20年度院内感染対策講習会に委員長の楠田が参加した。

文責：総務課長 大庭慎也

委員会開催日：必要に応じ随時

構成メンバー：院長（委員長） 管理部 4 名 ： 計 5 名

活動内容：火災通報・消火・避難訓練の計画を立案し、その実施を行う。

平成 20 年度の第 1 回目として下記消防署協力のもと、本格的な全員参加型の総合訓練・合同訓練を実施した。

第 2 回目として夜間を想定しての各部署代表者を中心とした部分訓練を実施した。

その他、毎月 1 回の消防用設備点検の実施を行っている。

結果：

第 1 回消火・避難訓練

日時： 平成 20 年 6 月 18 日（水） 17：30～

訓練内容：総合訓練（火災通報訓練・消火訓練・避難訓練）

消防署との合同訓練（梯子車・消防車・救急車の出動依頼）
（春日・大野城・那珂川消防本部）

4 F リハビリ室 2 より救出者 2～3 名を想定し、梯子車にて救出活動を行った。



第 2 回消火・避難訓練

日時： 平成 21 年 3 月 24 日（火） 17：30～

訓練内容：夜間を想定して少人数での消火・通報訓練

ヤナセファイテックの協力により火災通報・消火・避難誘導訓練を行った。



検討事項：年間計画の変更

（火災通報・消火・避難訓練の実施を年2回、
9月と3月に変更した）

文責：総務課長 大庭慎也

委員会開催日：平成20年8月6日（水） 年1回8月に開催

構成メンバー：院長（委員長） 看護部8名、管理部2名 ： 計11名

活動内容 : 医療ガスの保守点検

結果 :

毎日の点検は各病棟で実施している。

医療ガス機械室については総務課にて毎日の点検を実施し記録を残している。

平成20年8月20日～8月21日に医療ガス設備の保守点検を実施

- (業者) 株式会社 朝日酸素商会
- (点検結果) ・吸気フィルター・呼吸栓・安全弁・
Vベルトの4点を交換
- ・エアードライヤーの作動不良あり
- (対応) ・平成20年10月30日に
エアードライヤー修理完了

業者への確認と相談を行っている。

- ・酸素ボンベの新品を使用する際、ラベルがなく標示がないものがある
業者に連絡を行い対応実施
- ・書類の保管年数
点検表等の書類保管年数は5年間
- ・容器が少ない
冬場だけは多めに準備

文責：人事総務係 高見愛

委員会開催日： 毎月第2週木曜日 13:30～14:30

構成メンバー： 医師1名(産業医)、管理部4名(うち衛生管理者1名)、
リハビリ部2名、看護部2名(うち衛生管理者1名)、
カトレア1名、居宅介護支援事業所1名
訪問看護ステーション1名 計14名

活動内容： 労働災害ゼロ、職員のための快適な職場環境の推進、健康増進の推進を目的に活動している。

経過・結果など： 毎月、会議において前月の業務上災害等の報告、予防対策の検討等を行っている。
巡視表に基づき、安全かつ衛生的な職場環境の維持増進のため毎月職場の巡視を徹底している。
労働災害について社会保険労務士による院内勉強会を行った。

文責：介護老人保健施設カトレア
総務課 内田文宣

委員会開催日：月1回木曜日 17:30～18:00

構成メンバー：管理部3名、リハビリ部2名、
福祉課1名、訪問看護1名、
カトレア1名、居宅1名

活動内容：公用車を利用するにあたり、職員に安全運転を励行させるための取り組みを行う。

患者および利用者の送迎時における安全運転の意識付けや調整とルール作りを行う。

他病院や他施設が起こした重大事故を取り上げ、検証を行う。

経過・結果：事故報告に対し、なぜそのような事故が発生したのかを検証し、再発防止に努めるとともに各部署への周知徹底を行った。

患者および利用者の送迎時についての調整や詳細なルール作りを行なった。



文責：情報管理室長 添田照二

委員会開催日：4月

構成メンバー：管理部 1名

活動内容： 新人教育研修（スライドによる説明）

委員会開催日：5/29 12：30～13：00

構成メンバー：医局 1名、看護部 2名、リ八部 3名、管理部 7名、
カトレア 1名

活動内容：

胃ろう造設時、相手先病院より情報提供をFAXで送る際氏名等を消さずに送ってほしいとの要望があった件の確認。研究などで撮影したものの管理責任

委員会開催日：6/26 12：30～13：00

構成メンバー：看護部 2名、リ八部 2名、管理部 5名

活動内容：

胃ろう造設時、相手先病院より情報提供をFAXで送る際氏名等を消さずに送ってほしいとの要望があった件FAX送信の際氏名・生年月日を消してイニシャルを記載して送る。事前に電話連絡をする。
研究などで撮影したものの管理責任、各部門長の責任で運用していくことを確認。台帳による管理を徹底する。

文責：副院長 楠田憲治

開催日・開催頻度：第3木曜日・11：30～

構成メンバー：医師 10名、薬剤師 1名、看護部 2名 計13名

活動内容： 医薬品適正使用のための審議を行う

新規採用薬・削除薬の検討

後発品薬剤の導入

医薬品適正使用の為の具体的な方法の検討

重大な副作用等、医薬品に関する情報提供・勉強会

メーカーによる薬剤説明会

経過・結果：

< 新規採用薬 >

糖尿病治療薬、アクトス錠 15mg (特別採用薬より)

脂質異常症治療薬、プラバチン錠 5mg (メバロチン錠 5mg からの切替)

降圧薬、レニベーズ錠 5mg (レニベース錠 5mg からの切替)

副腎皮質ステロイド外用剤、マイザー軟膏 (軟膏の再検討の結果)

副腎皮質ステロイド外用剤、リドメックスコーワ軟膏 (軟膏の再検討の結果)

副腎皮質ステロイド外用剤、キンダベート軟膏 (軟膏の再検討の結果)

降圧剤、アーチスト錠 2.5mg (アーチスト錠 10mg からの切替)

降圧剤、ミカルディス錠 20mg

下剤、マグミット錠 330mg (酸化マグネシウムからの切替)

血行促進・皮膚保湿剤、ヒルドイドソフト

消化性潰瘍治療薬、スタンゾーム OD 錠 15mg (タケプロン OD からの切替)

電解質輸液製剤、維持液、リプラス 3号輸液 200ml

抗ヘルペスウイルス薬、アラゼ軟膏 5g (ゾビラックス軟膏からの切替)

< 採用削除薬 >

ビスホスホネート製剤(骨骨粗鬆症治療薬)、ベネット錠 2.5mg (ベネット錠 17.5mg への切替)

抗不整脈薬、アンカロン錠 100mg (使用期限切れのため)

経腸栄養剤、エンテルード (販売中止のため)

副腎皮質ステロイド外用剤、リンデロン VG 軟膏 (軟膏の再検討の

結果)

副腎皮質ステロイド外用剤、アルメタ軟膏(軟膏の再検討の結果)

腎不全用アミノ酸製剤、キドミン(最近使用実績がないため)

下剤、酸化マグネシウム(マグミット錠 330mg への切替)

表在性抗真菌薬、ポンシル FP 錠 125mg(販売中止のため)

消化性潰瘍治療薬、タケプロン OD 錠 15mg(スタンゾーム OD 錠 15mg への切替)

PDE 阻害薬(心不全治療薬)アカルディーカプセル(最近使用実績がないため)

抗ヘルペスウイルス薬、ゾビラックス軟膏(アラージェ軟膏 5g への切替)

5%ブドウ糖注 250ml(ヒシヤマ)(販売中止のため)

委員会開催日：第3火曜日、13：30～14：00

構成メンバー：医局1名

看護部各病棟より1名ずつ

リ八部 ST2名

栄養課2名（病院栄養士・委託栄養士）

活動内容： 日頃の食事内容について検討を行い、改善解決を図る

経過・結果など：

STの直接訓練用のゼリー

冷凍の果汁ゼリーを廃止し、常温で安定性があるエンゲリードミニゼリーを採用。

段階的嚥下食（開始・段階1）の内容、導入決定

段階食用に作られた市販のゼリーを採用

また、主食・汁物についてもゼリーでの提供可能となる

アイオールソフトの導入（H20.4月～）

高栄養プリンを廃止し、アイオールソフトに代替

待ち食についての提供方法変更

衛生管理上の問題で、配膳時間2時間を過ぎれば軽食（パンと飲み物）で対応となる

主食の呼称変更

二度炊を軟飯、軟飯を全粥に呼称を変更した。

また、水分量を少なくした今までの軟飯は廃止とする。

カルテ開示委員会

文責：医事課長 加藤大樹

委員会開催日：申込を受けて随時開催

構成メンバー：院長（委員長） 医局 3 名、看護部 1 名、
リハビリテーション部 2 名、管理部 6 名、計 15 名

活動内容：カルテ開示の申込に対する開示範囲の検討・対応など

平成 20 年度活動実績

	開催日時	場所	申込者	続柄	開示内容
1	6月3日	会議室	福岡地方裁判所第5民事部		全部開示 (電子カルテ2号用紙印刷)
2	7月10日	会議室		本人	リハビリ実施記録写しの提出
3	3月5日	会議室		母	全部開示 (電子カルテ2号用紙印刷)

文責：医局長 鍵山智子
2 病棟課長 吉村綾子

委員会開催日・開催頻度：第 4 木曜日，12:30～13:00・月 1 回

構成メンバー：専任医師（委員長），専任看護師 1 名，薬局 1 名，
リハビリ部 1 名，栄養課 1 名，各病棟選出の委員各 1 名

活動内容：

毎月，褥瘡に関する患者データを基に褥瘡画像をみながら評価を行い，ケアや治療内容を委員メンバーで話し合い，早期治癒に向けて対策を検討している。

体圧分散マットレスの新規契約を 9 月に行い，新しい体圧分散式静止型マットレスを 30 枚導入した。

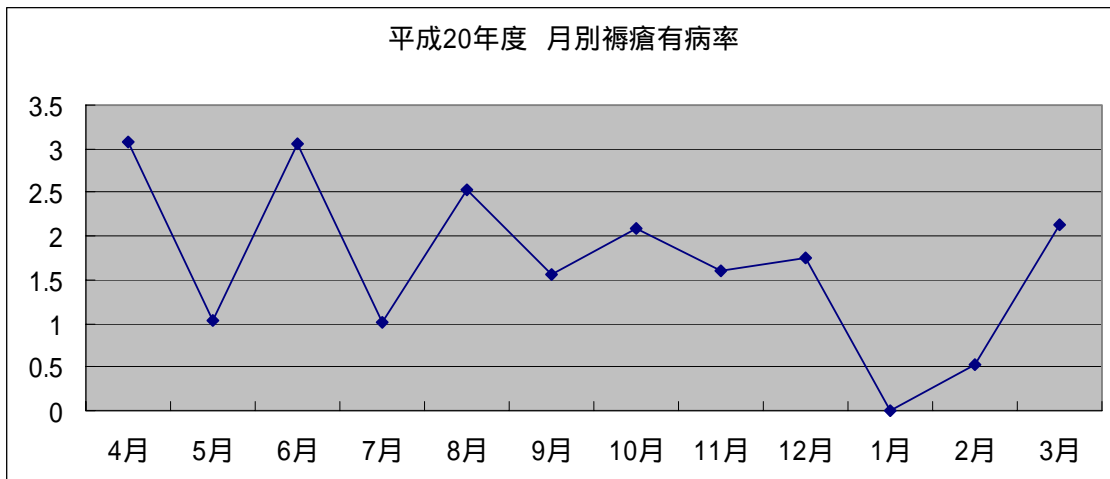
院内研修として 9/10 に体圧分散寝具業者による研修会を実施した。看護師・助手・セラピストの約 35 名が参加した。また，院外研修として日本褥瘡学会九州地方会教育セミナー（5/25 長崎）に 1 名，第 10 回日本褥瘡学会学術集会（8/29・30 神戸）に 1 名参加した。

経過・結果：

平成 20 年度の褥瘡発生患者数は 27 名で，褥瘡発生部数は 31 例であった。そのうち，

院外（持ち込み）発生は 17 例で，院内発生は 14 例であった。月別褥瘡有病率は下記に示す。褥瘡発生患者の平均年齢は 81.2 歳，男女比は 7：20，疾患別では脳梗塞が 32%と最も多く，脳出血 19%，大腿骨骨折 15%，廃用症候群 11%，肺炎 11%の順であった。

褥瘡深達度は 度が 94%とほとんどを占めていた。発生部位は仙骨部が 52%と大半を占めており，踵部 23%，殿部 16%の順であった。院内発生褥瘡のほとんどが 1 ヶ月以内に治癒しており，1 ヶ月以上経過したものは 3 例であった。治癒に至らず退院したものは 2 名であった。



文責：副院長 林克樹

委員会開催日・開催頻度：第2・4月曜日、13：00～

構成メンバー：各部門から十数名程度

活動内容：

本会議は、日々の診療で発生した様々な問題点、予測される問題や診療録管理について各診療部門や事務部門から問題点を持ち寄り、その円滑な改善を目的に定期的に行われている会議です。

会議では、活発な意見や改善案が討議され、その結果を日々の診療改善に生かすとともに、議事録として記録されています。

また、討議内容で病院としての判断が必要とされた場合は、幹部会議に提出され、討議を経て方針が決定された上で再度、診療部門会議に持ち込まれ日々の診療の改善に生かされています。

文責：医師 横溝裕子

委員会開催日：第2週火曜日（偶数月、提議事項あれば毎月）

12:30~13:00

構成メンバー：医局、リハビリ部、看護部、管理部、計5名

活動内容：

図書の整理

必要書籍の購入

定期購読雑誌継続の見直しおよび手続き

古雑誌整理

経過・結果など：

各部署での閲覧状況調査を行い、定期購読雑誌継続の見直しを行った上で継続手続きを行う。

図書室の古雑誌を整理し、収納スペースを確保。

雑誌も含め書籍をデータベース登録し管理。

文献検索システムの法人契約に関して検討し起案を提出。

図書・図書室利用規程を検討し改定。

文責：作業療法課長 長野浩子

委員会開催日：第2・4金曜日、
12：30～13：00、

構成メンバー：医局1名、管理部2名、看護部3名、
リハビリ部2名、福祉部1名、
メディカルフィットネス1名

活動内容：
・ 広報誌作成
・ 年報作成



経過・結果など：

- 1. 誠愛タイムズ；病院を中心とした記事を掲載し、入院・外来患者、家族、関連施設などへの当院での活動を啓蒙する役割として、年3回の発行を行った。発行部数は、200部程度で、院内にて閲覧できるよう設置している。

平成20年4月号掲載記事；新年度挨拶（理事長・名誉院長・院長）院内行事(入社式・花見)、花粉症、睡眠時無呼吸症候群、脳梗塞・脳出血後の「うつ」について

平成20年8月号掲載記事；新医師紹介、三次元動作解析装置、タバコ・お酒と胃薬、

熱烈歓迎！奇美病院、夏祭り、鳥かご作り名人

平成20年12月号掲載記事；医局からこんにちは、ポバースアプローチ上級講習会、

Roy Adaptation Association から Award Paper を受賞しました、ふれあい演芸会、

表紙イラスト作者紹介

- 2. 健康支援ジャーナルあいあい倶楽部；健康支援を目的に健康やフィットネス関連の記事について掲載している。

平成20年4月号；第1回健康教室実施報告、花粉症について、ストレッチ、あいあいマシン、ツボ、

平成20年8月号；夏ばて予防食欲不振解消の食事、ストレッチ、あいあいマシン、ツボ

平成20年11月号；第2回健康教室実施報告、スタッフ紹介、ストレッチ、あいあいマシン、ツボ、

平成21年3月号；レッスン紹介(ピラティス)、スタッフ紹介、会員さんの感想、メタボ予防のためのダイエット、ストレッチ、あいあいマシン、ツボ

- ・ 平成19年度年報作製

委員会開催日・開催頻度：毎月第二水曜日、17:30～

構成メンバー：リハビリ部 2名、看護部 2名、管理部 2名

活動内容：

病院内、外周付近の環境美化を定期的にチェックしていく。

主なものとして

病院機能評価に向け、病院内および建物周囲の破損箇所の徹底調査を行った。

院内緑化計画

壁面、カーテン、照明等の問題点抽出

経過：

本年度は、計11回の実行委員会を開催し、上記のを重点的に行った。チェックリストを作成し、メンバーで分担して院内全施設の破損状況を調べ、統括して管理部に提出。その後に業者等の介入が入り、目立つ箇所はほとんど完了した。

は継続的な管理(剪定・水やり等)を業者に委託する方向である。 に関しては、ほぼ完全に修繕箇所には対応できた。

来年度への提案・改善項目：

- ・ 院内の車椅子の状況把握、点検。
- ・ 施設設備面に問題が生じた際の連絡の流れの確認。
など

文責：医事課長 加藤大樹

委員会開催日：毎週木曜日 朝のスタッフミーティング（朝会）後

構成メンバー：院長（委員長） 医局 1 名、看護部 2 名、
リハビリテーション部 2 名、管理部 6 名、計 12 名

活動内容：ご意見に対する回答

患者の皆さんからの要望に対して議論することにより、患者満足度に対する意識の向上、ならびに、患者サービスの向上を図る。

活動実績

	投書数	改善	注意喚起	質問内容がよくわからない 回答不可能 等	計
9月	13	3	9	1	13
10月	9	4	3	2	9
11月	10	3	4	3	10
12月	9	4	3	2	9
1月	4	2	1	1	4
2月	5	3	1	1	5
3月	6	4	1	1	6
	56	23	22	11	56

ご意見に対して何らかの行動をし、改善したと認められるものは
23/56=41%であった。

また注意喚起による改善を含めると、45/56=80%となった。

改善例：

傘たての購入、リハビリ室スリッパの購入、電話連絡簿の活用、お薬ができる
までの掲示、お薬番号札・テレビモニターの導入、車椅子の定期点検、食堂の
業者変更、職員の喫煙時間設定、案内板の設置など

文責：医師 渡邊義将

委員会開催日・開催頻度：

偶数月の第3金曜日（年6回；臨時委員会については必要に応じて開催）

構成メンバー：

医局（委員長）、検査課 1名、薬局 1名、看護部 1名

活動内容：

当委員会では、当院における血液製剤の使用が、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の定めにしたがい安全かつ適正になされるよう、諸問題の調査・検討・審議を行っています。

具体的には、(1)輸血療法の適応や血液製剤の適正使用に関する規定の作成、(2)当院における各種血液製剤使用の統計に基づいた血液製剤適正使用の実施計画の作成、(3)輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、(4)輸血実施時の手続き・手順の策定を行い、また、これらについて問題点を定期的に検証し見直しを行っています。さらに、継続的に血液製剤の使用状況調査を実施しており、不適正な使用事例が認められた場合は、主治医からのヒアリングも含め症例検討を行って、原因の特定・再発防止策の検討・関係者へのアドバイスを行い、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症が発生した場合は、事故対策委員会などと緊密に連携し、事例の内容・発生要因・改善策などについて検討を行います。

結果・経過など：

平成20年度は、輸血療法をとりまく社会的・医学的現況や当院の輸血療法の実情に即して輸血療法がより安全かつ適正に行われることを目指して、当院における輸血療法の最も基本的なルールである「誠愛リハビリテーション病院輸血療法マニュアル」を5年ぶりに改訂しました。また、輸血業務がより安全かつ円滑に実施されるよう、「輸血実施マニュアル」の策定、「輸血に関する看護手順」および「輸血実施票」の改定、ならびに「輸血患者観察のためのチェック表」の作成を行い、これらの運用を開始しました。

当院における平成20年度の血液製剤使用状況は、

1. 濃厚赤血球：2例、計9単位
2. 血小板濃厚液：2例、計30単位

であり、いずれの例においても、不適正な使用、実施・運用上の過誤、輸血に伴う事故・副作用や重篤な合併症は認められませんでした。

文責：栄養係長 西山晃

委員会開催日：毎月第4木曜日、13：00～13：30

構成メンバー：医局 1名、栄養係 1名、検査係 1名、薬局 1名、
看護部 各病棟より1名

平成20年度活動状況：

平成20年度は当院でNST委員会を設立した年で、稼動に先駆けてNST規約を作成し、栄養管理の有用性や正しい使用管理を啓発する勉強会を発足した1年であった。平成20年5月よりアボット・ジャパン(株)と共同の勉強会を月1回開催し、委員会メンバーの栄養管理に対する知識の向上を図り、多様な栄養評価法・管理法を学んだ。

経過：

< 当院におけるNST基本理念の決定 >

- ・栄養ケアの目的は、低栄養状態の回避のみではなく、まず患者のQOLを踏まえたゴールを考えることである。
- ・長期的視点に立ち、優先すべきことが、栄養素量なのか食べることなのかを見極める。
- ・優先すべき栄養ケアは、病態の治療かQOLへの配慮か、症状や機能の改善、患者・家族の希望のいずれにあるのかを検討する。
- ・栄養ケアプランを行うためには、関わる問題を患者側・医療者側・栄養ケアに関することの方向で整理する。

< NSTルーチン業務の設定 >

NST委員会でのルーチン業務として下記を入院患者全員に実施。

入院時栄養評価：

入院時、すべての患者を対象にスクリーニングとしての栄養評価を行い、栄養不良患者、治療中に栄養障害を併発する可能性のある患者をNST症例として抽出。褥瘡や摂食・嚥下障害、呼吸障害の有無や危険性についても同時に評価する。

NST症例の抽出

栄養状態二次評価：

症例検討・栄養管理プランニング：

栄養管理の実施

栄養状態の定期的評価

必要に応じたプランの修正

患者および栄養管理法の評価

退院後の栄養管理法の指導

<NST ミーティング>

委員会の際に、栄養管理面での問題症例について検討。入院時に NST 症例として抽出されなかった場合でも、入院中に栄養障害を来し十分な栄養管理が必要とされる場合があり、定期的な栄養スクリーニングも実施。

文責：総務課長 大庭慎也

委員会開催日：平成20年9月5日（金） 年1回開催

構成メンバー：院長（委員長） 医局1名、看護部2名、

リハビリテーション部2名、管理部6名、カトレア1名

計13名

活動内容：各部署や委員会で実施する教育の調整および援助

教育に関する企画、立案、研究ならびに資料の収集

誠愛院内勉強会の開催

結果：

平成20年7月以降実施した勉強会

実施月日	タイトル	講師	関連委員会
7月8日	「脳卒中の病態と多面的治療」	誠愛リハビリテーション病院 院長（九州大学 病態機能内科学 特任准教授） 井林 雪郎	
9月8日	「最近の結核の動向について」	福岡大学病院呼吸器内科 助手 吉村 力	感染対策委員会
9月16日	「心肺蘇生法講習会」	九州大学病院 救命救急センター 講師 杉森 宏	
10月7日	「脳血管障害患者の転倒要因と対策」	誠愛リハビリテーション病院 副院長 看護部 金山 萬紀子	事故対策委員会
11月18日	「脳卒中のリハビリテーション」	誠愛リハビリテーション病院 副院長 リハビリテーション部 林 克樹	
12月9日	「ワーファリン使用上のリスクマネジメント」	誠愛リハビリテーション病院 内科医師 横山 葉子 エーザイ株式会社 共催	事故対策委員会
1月8日	「今後のリハビリテーションの展望」	医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院 理事長 石川 誠	
3月10日	「労働災害と通勤災害」	社会保険労務法人 小川労務管理事務所 所長 小川 茂	
3月16日	「院内肺炎について」 「オセルタミビル（タミフル）耐性インフルエンザウイルス」	福岡大学病院呼吸器内科 助手 吉村 力 誠愛リハビリテーション病院 副院長 医局 楠田 憲治	感染対策委員会

平成21年度の計画

実施月	タイトル	講師	関連委員会
4月	「各部の活動目標」	誠愛リハビリテーション病院 院長（九州大学 病態機能内科学 特任准教授） 井林 雪郎 誠愛リハビリテーション病院 名誉院長 黒川 徹 誠愛リハビリテーション病院 内科部長兼医局長 鍵山 智子 誠愛リハビリテーション病院 看護部部长 中村 真紀 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部部长 泷 雅子	
5月	「心肺蘇生法講習会」	九州大学病院 救命救急センター 講師 杉森 宏	
6月	「臨床薬理」	誠愛リハビリテーション病院 内科医師 渡邊 義将	
7月	「確定拠出年金教育」 「個人情報保護」	誠愛リハビリテーション病院 管理部次長 樽木 理恵子 誠愛リハビリテーション病院 医療情報室長 添田 照二	個人情報保護委員会
8月	「感染症 - 輸入感染症の基礎 - 」 「平成20年度 看護部事故報告のまとめ」 「リハ部における事故対策」 「通所リハビリテーション誠愛事故報告のまとめ」 「メディカルフィットネスあいあい倶楽部の事故安全対策」 「カトレアでの転倒転落事故予防における情報の共有について」	誠愛リハビリテーション病院 内科医師 石松 義弘 誠愛リハビリテーション病院 看護部 係長 上津原 珠美 誠愛リハビリテーション病院 理学療法課 係長 万庭 寛 誠愛リハビリテーション病院 作業療法士 吉田 久美香 誠愛リハビリテーション病院 メディカルフィットネス 課長 久保 敦 介護老人保健施設カトレア 介護福祉士 升本 欽三	事故対策委員会 感染対策委員会
9月	「接遇マナーとクレーム対応」	誠愛リハビリテーション病院 管理部 医事課 三塩 恵美子	

	「尊厳あるケアを目指して・マイヒストリー」	介護老人保健施設カトレア 施設長 岩瀬 豊子	
10月	「人事考課制度の概要について」	株式会社 佐々木総研 人事コンサルティング部長 社会保険労務士 三原 靖	
11月	「生命・医療倫理の法的基礎」	ちくし法律事務所 弁護士 浦田 秀徳	
12月	休み		
1月	「未定」	社団法人是真会 理事長 栗原 正紀	特別講演 3月 と入替もあり
2月	「未定」 「未定」	各部署 誠愛リハビリテーション病院 副院長 医局 楠田 憲治	事故対策委員会 感染対策委員会
3月	「未定」 「未定」	看護部 リハビリテーション部	

検討事項：誠愛教育委員会の開催日を年1回2月と決定した。

誠愛院内勉強会の開催日

原則として毎月第1火曜日17：30～（60分）と決定した

平成20年度委員会会議開催実績一覧

委員会・会議名	H20年度開催実績												
	4/22	5/27	6/24	7/22	8/26	9/24	10/29	11/25	12/25	1/27	2/27	3/27	
経営幹部会議	4/22	5/27	6/24	7/22	8/26	9/24	10/29	11/25	12/25	1/27	2/27	3/27	
運営会議	4/17	5/22	6/19	7/17	8/21	9/18	10/28	11/20	12/18	1/22	2/26	3/26	
医療安全管理委員会	11/5												
事故対策委員会	4/2	4/16	5/7	5/21	6/4	6/18	7/2	7/16	8/6	8/20	9/3	9/17	10/1
	10/1	10/15	11/5	11/19	12/3	12/9	12/17	1/7	1/22	2/5	2/19	3/5	3/19
医薬品安全管理委員会	4/16	5/21	6/18	7/16	8/20	9/17	10/1	11/5	12/3	12/17	1/22	2/19	3/19
医療機器安全管理委員会	4/2	5/7	6/4	7/2	8/6	9/3	10/1	10/15	11/19	12/9	1/7	2/5	3/5
感染対策委員会	4/8	5/13	6/10	7/8	8/12	9/9	10/14	11/11	12/9	1/13	2/10	3/10	
医療ガス安全管理委員会	8/14												
防災委員会（自衛消防隊）	6/27												
労働安全衛生委員会	4/9	5/14	6/11	7/9	8/20	9/10	10/8	11/12	12/10	1/15	2/12	3/12	
公用車運行管理委員会	4/3	5/1	6/5	7/3	8/7	9/4	10/2	11/6	12/4	1/15	2/5	3/5	
個人情報保護委員会	5/29	6/26											
薬事委員会	4/17	5/15	6/19	7/17	8/21	9/18	10/16	11/20	12/18	1/21	2/18	3/18	
給食委員会	4/15	5/20	6/17	7/15	8/19	9/16	10/21	11/18	12/16	1/20	2/17	3/17	
カルテ開示委員会	6/3	11/10	3/5										
倫理委員会	9/3												
褥瘡対策委員会	4/23	5/28	6/25	7/23	8/27	9/24	10/29	11/26	12/24	1/28	2/26	3/26	
診療録管理委員会	4/9	4/23	5/14	5/28	6/11	6/25	7/9	7/23	8/27	9/10	10/8	11/12	12/10
	12/24	1/14	1/28	2/25	3/11	3/25							
図書管理委員会	4/15	5/13	6/10	7/8	9/9	10/14	12/9	2/10	3/10				
広報委員会	4/11	4/25	5/9	5/23	6/13	6/27	7/11	7/25	8/8	8/22	9/12	9/26	10/10
	10/24	11/14	11/28	12/12	12/26	1/9	1/23	2/13	2/27	3/13	3/27		
ホームページ委員会	1/22	2/6	2/13	2/20	2/27	3/6	3/13	3/27					
環境美化委員会	4/7	5/14	6/11	7/9	8/20	9/10	10/8	11/12	1/14	3/11			
サービス向上委員会（意見箱）	9/1	9/16	9/30	10/6	10/14	10/27	11/4	11/17	11/25	12/8	12/15	12/22	1/5
	1/13	1/19	1/26	2/2	2/9	2/16	2/23	3/2	3/9	3/16	3/23	3/30	
輸血療法委員会	12/19	2/20											
誠愛教育委員会	1/8	2/23	3/10										
事業所別連携会議	4/11	5/9	6/13	7/11	8/8	9/12	10/10	11/14	12/12	1/9	2/13		
診療部門会議	4/9	4/23	5/14	5/28	6/11	6/25	7/9	7/23	8/27	9/10	10/8	11/12	12/10
地域連携バス会議	4/8	5/13	6/10	7/8	8/12	9/9	10/14	11/11	12/9	1/13	2/10	3/10	
誤差返戻会議	4/16	5/21	5/21	6/18	7/16	8/20	9/17	10/15	11/19	12/3	12/17	1/21	2/18
病床会議	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30
	8/6	8/20	8/27	9/3	9/10	9/17	9/24	10/1	10/8	10/15	10/22	11/5	11/12
	11/19	11/26	12/2	12/9	12/16	1/6	1/13	1/20	1/27	2/3	2/10	2/17	2/24
	3/3	3/10	3/17	3/24									
治験審査委員会	6/26												
NST会議	4/9	5/14	6/11	7/9	8/20	9/10	10/8	11/12	12/10	1/29	2/26	3/26	

「誠愛リハビリテーション病院 年報 2008（平成 20 年度）」

発 行 医療法人社団三光会

誠愛リハビリテーション病院

院 長 井 林 雪 郎